

意見交換会等の開催結果について（概要・アンケート結果）

- 食品に関するリスクコミュニケーション（東京）
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 9月16日開催・・・ 1

- 食品に関するリスクコミュニケーション（大阪）
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 9月18日開催・・・ 11

- 食品に関するリスクコミュニケーション（名古屋）
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 9月27日開催・・・ 23

- 食品に関するリスクコミュニケーション（岡山）
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 9月28日開催・・・ 31

- 食品に関するリスクコミュニケーション（福岡）
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 10月6日開催・・・ 37

- 食品に関するリスクコミュニケーション（札幌）
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 10月8日開催・・・ 42

食品に関するリスクコミュニケーション（東京）概要
—日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策の検証に関する意見交換会—

１．日 時：平成１６年９月１６日（木）１８：００～２０：３０

２．場 所：ＪＡホール（千代田区大手町１－８－３）

３．主 催：内閣府食品安全委員会

４．参加者：２４０名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）

５．議 事

（１）開会挨拶 寺田雅昭 食品安全委員会委員長

（２）講演

「プリオン専門調査会における調査審議の経緯及び『日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策について—中間とりまとめ—』などについて」

吉川泰弘 食品安全委員会プリオン専門調査会座長

（東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻教授）

（３）会場参加者との意見交換（主な意見、質問）

．リスク評価について

- 20 カ月以下で危険があるなら、食用は禁止すべきではないか。疑わしいものについては予防原則を適用すべきではないか。
- 20 カ月齢以下の感染例を確認することができなかったという結論は、誤解を生むおそれがある。
- v C J D の発生リスクの推定に、肉エキスの加工品、輸入食品、海外旅行者などのリスクが考えられていない。
- 輸入生体牛は危険な飼料を食べている可能性があるので、別に評価すべきだ。
- 日本における内臓、脳の流通について、食品安全委員会で議論したか。
- 熊本県で出た 12 例目は、今までの発生例と出生時期が違うが、リスク評価に影響が出るのか。
- 8・9 例目の感染実験の結果が出るまで、中間とりまとめが待てなかったのか。
- 今後、日本の B S E 対策のあり方、アメリカの対策のあり方を食品安全委員会が評価していくのか。
- B S E 発生国から輸入された食肉製品、加工食品はリスク評価されていない。

．リスク管理措置について

- 検出限界は月齢にあるのか、暴露量にあるのか、その累乗かが整理されていない。
- 全頭検査のおかげで早期に信用を回復できた。生産現場の思いをわかってほしい。
- ホルスタイン種のと畜数は 20 ヶ月齢がピークだ。20 ヶ月齢以下を検査対象から外すと、ホルスタイン牛の 50 % は外れてしまうのではないか。

（４）閉会挨拶 寺尾允男 食品安全委員会委員長代理

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004 年 9 月 16 日（木）

参加者数：240 名 回答数：81 名（回答率 33.8%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	25	30.9%
2) 農林水産業	5	6.2%
3) 食品関連事業者	12	14.8%
4) 食品関連団体	15	18.5%
5) 研究機関	1	1.2%
6) 行政関係	13	16.0%
7) マスコミ関係	1	1.2%
8) その他	9	11.1%
・ 外国公館（1）		
・ 食品安全モニター（1）		
・ 食品関連事業経験者（1）		
・ 学生（1）		
・ 産業医（1）		
・ 商社（1）		
・ 無回答（3）		

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	42	51.9%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	12	14.8%
3) 関係団体からのご案内資料	17	21.0%
4) 知人からの紹介	9	11.1%
5) その他	4	4.9%
・ 農水メルマガ（1）		
・ 会場の案内板で。（1）		
・ 農水省消費安全局消費者情報官 e - m a i l。（1）		
・ 無回答（1）		

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	28	34.6%
2) やや評価する	34	42.0%
3) あまり評価しない	11	13.6%
4) 評価しない	4	4.9%
5) 無回答	4	4.9%

評価理由・

- ・パブリックコメントも募集すべきだ。地方の人で会場に来られない人もいる。文書で募集し、その内容すべてをまとめずに公開してほしい。時間が短すぎて質問への回答がなされない質問も多いのに2分ではとても全部言えない。また8 / 4のようなレポートつき陳述会を行ってほしい。
- ・発症メカニズムが不明である状態でのリスク評価はより危険な方向になっている印象がある。
- ・座長の説明は一言で明確にし、意見交換の時間を増やしてほしい。
- ・真面目に国民のために努力いただき感謝いたします。しかし、このBSE問題、なんだか小さなRISKを極限まで引きのばして大げさにしていませんか？
- ・“安全”と“安心”の差をどう埋めていくか、難しいことであるが、このような会合は意味があると思います。
- ・何故今のこの時期に意見交換会を開催するのか目的が不明。20ヶ月で切る理由の意味は、米国産牛肉の輸入のためのアリバイ作りとしか思えない。日本だけが全頭検査するのが何故悪いのか。
- ・意見が偏っている印象を受けました。特に意見交換ではなく、現在の間とりまとめに対する批判にしか聞こえません。
- ・SRMの除去こそが安全確保に重要であると言う事が前提になく、相変わらず検査（不完全な）の事みの話に終始している。
- ・文章の議論がリスクコミュニケーションとは思えない。100万分の1以下のリスクをなぜもっと強調して言わないのか不思議。もっと危険な食べものはたくさんある。今後は1・2億分の0・1～0・9を今後、リスクの線引き基準とする国にするつもりですか。
- ・吉川先生と科学的なお立場で本当に苦慮されているのがよく理解できました。消費者の見方で危険なものは全て排除という感情的な考え方と、データに基づいた危険度推定の考え方のギャップ差を埋めるのはなかなか困難なのかなと思いつつ、繰り返しの意見交換が更に必要かと。
- ・率直な意見が出てよかった。
- ・これまでのリスクコミュニケーションをみて感じたことは、何の為にこのリスクをやっているのか？ということです。ただ聞くだけで何ら施策に反映されないとすれば、単なるガス抜きにすぎないことになります。
- ・あと30分程度時間があったら良かったと思いますが委員のみなさん方ごくろう様でした。
- ・行政関係の文書のみでの発表ではなく、実際、話を聞くという手法はこれからも必要と考える。まさにリスクコミュニケーションである。
- ・進行がスムーズだった。
- ・発言希望者全員に発言の機会が与えられなかった。時間が足りないのでは。
- ・いわゆる消費者団体の意見を真剣に対応していることは大変評価します。ただしこの時間帯がよかったかは「？」がつきます。
- ・今なぜこの時期に「中間とりまとめ」なのかなど、あまりよく理解できなかった。リスク評価機関としての姿勢をもっと明確にし、消費者にもよく分かるように説明すべき。
- ・討議の時間が短く、1人1回しか発言できなかった。
- ・東京で開催されている数回に参加しましたがメンバーの固定化と議論の硬直化が感じられます。この様な（一般参加）方式の継続も大切だと思いますが、新たなRCの形式を加えていくこともご検討されてはいかがでしょうか（代案がなくすみません。）
- ・食品安全委員会プリオン専門調査会の委員の意見が結論部分に反映されておらず、中間のまとめと結論の落差を感じる。結論の部分に省庁や政治的な要素が入っているのではないかと。
- ・正直な説明があった。

- ・リスクの大きさについて、大項目、中項目、小項目をわかりやすく報告してほしい。消費者は小項目かどうかのわかりにくからです。
- ・リスク評価がもともと限定要素が大きいと言われているにもかかわらず、今回の議論の前提としてリスク評価から計算された数値に委員会メンバーがこだわっていたので、質問者と議論になっていなかった。
- ・安全委員会の行動について、一般の人はマスコミから情報を得るしかないのが実情だと思う。新聞は一方的な解説が多く、誤解され易い。安全委員会としてのPRはやはりやるべき。
- ・各出席者のキタンのない発言はとてもしつこいことです。もっと話の基準を明確にしていくべきではないでしょうか。
- ・意見が報告書等に全く反映されていない。単なるガス抜きである。
- ・消費者代表が生協関係者に限られているように感じられる。一般消費者は意見交換会に出席しないのではないか。
- ・いろんな立場、いろんな考えを持った人の意見を聞くことは良いことである。
- ・活発な意見交換があり、大変勉強になった。中間報告の内容をよく理解できた。
- ・負の遺産について今後の心配が生じた。リスク管理はきっちりと頑張ってもらいたい。
- ・わかること、わからないこととはっきり説明いただきありがとうございました。
- ・基調講演のみならず、後半の意見交換の時の時間が多くとられ、一問一答形式で丁寧な回答がありよかった。
- ・コミュニケーションを重視している。
- ・プリオン委の座長、副座長の誠実さは評価。
- ・消費者団体や生協などに所属する方々の発言ばかりで一般消費者の発言が全くなかった事が大変残念に思います。
- ・直接委員の方の考えを聞くことが出来る。
- ・中間発表の内容や立場(?)を理解していない質問者が多い。またそれに対する回答もあいまいなものが多い。先にペーパーで質問を出させてから交換会をしたほうが良い。
- ・意見交換の場を持つことは良いことだが、質問に対する答えが明確でない場合がある。
- ・中間とりまとめの説明より質疑応答が大変勉強になりました。
- ・350万等の牛を調べたのは、どこの、誰が、どんな検査したか、さっぱり分からない。ケンサ、ケンサの現場の事をもっと詳しく説明してほしい。説明すべき。
- ・会場からの意見、質問に対し、吉川さんはじめ、みなさん率直に回答していた。
- ・非常に率直な意見交換ができて良かったのでは? 行政側も消費者のホンネがまた消費者も行政の具体的な説明が直接聞けた事は有意義だったと思う。
- ・筋違いの質問(内部告発があった。私はこういう事実を知っている)などに対し、答えの内容がかみ合わずもどかしさを感じました。科学的立場には立っているが、非科学的な質問に対し、何を心配しているかを汲みとれ切れていない感じ。
- ・色々な立場の人の意見を取り上げられた為。
- ・検出限界以下の牛についてのリスクを排除できないにもかかわらず、我が国のリスク低減に効果がある全頭検査を見直しとした根拠が理解できない。まとめとしては、維持すべきとするべきではないか。
- ・委員会の構成メンバーの意欲が良くわかった。
- ・今回の交換会は急ぎすぎである。今までにないものを感じた。政府機関であるが、もう少し独立した委員会を期待する。
- ・このような会はとても大切なので、遠方でも参加できるよう、各県で一会場とするなど、もっと

機会を増やしてほしい。

- ・先生方の説明がわかりやすく、取り組んでいる姿勢が感じられる。
- ・活発な意見がきけた。
- ・開催すること自体に意義がある。
- ・質疑応答を時間をじっくり取って行う姿勢は評価します。しかし、会場からの質問の内容、ポイントを司会の方が十分に把握されていない面が見られて、うまくかみ合わせができていない場面があったと思いました。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | |
|---|----|-------|
| 1) 広く関係者の意見を聴き、意見交換する行政の姿勢がみられた | 39 | 48.1% |
| 2) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた | 29 | 35.8% |
| 3) 対行政だけでなく、立場の異なる関係者間での意見交換が大切と感じた | 25 | 31.0% |
| 4) 意見交換としては、不十分だった(時間的・内容的)
時間的(10) 内容的(4) | 30 | 37.0% |
| 5) 行政の一方的な説明に終わって、運営に不満を感じた | 1 | 1.2% |
| 6) BSE対策について理解が深まった | 20 | 24.7% |
| 7) その他 | 11 | 13.6% |
- ・ 西郷さんががんばっている。
 - ・ まだまだ理解ができない消費者が多いと感じた。
 - ・ 山浦氏などこの場でなくても発言機会のある方がなぜ指名されるのですか？
 - ・ この会の目的、今後のシナリオ、何に使われるのかと最初に説明しないのが疑問。
 - ・ リスクコミュニケーションが単なる意見を聞く場(ガス抜きの場合)であってはいけないと思う。消費者が委員に入っていないのだから、それを反映する仕組みが必要だ。
 - ・ 今回のように事実報告と、日本のBSE対策のリスク管理のあり方について行政の説明責任とは違うのでは？
 - ・ 片寄った意見、時間オーバーの人がいて残念
 - ・ フリーの意見会の為、しょうがないが質問が飛びすぎ。聞きたいことが聞けなかった。
 - ・ BSE対策についての理解に対し、良くも悪くも。
 - ・ この場に来られない人の意見をどう集約するかが課題。
 - ・ 伝える努力はまだ足りない。

問5 BSE問題について、どのようなことに関心がありますか？

- ・ 日本では耳標による管理をはじめているが、誕生日が本当に正しく届けられているか心配。今年になっても牛の素埋め事件があったが、死亡届もいい加減に管理できるのに、出生届がまともに管理されているか疑問。20ヶ月なんて区切れないと思う。アメリカとすべて結びつけて報道されているので「20ヶ月は米国とは関係ない、国内のみの評価であり、米国は又別途、評価が必要である」と付け加えて強調すべきである。日本の牛の中には輸入生体牛がいて3ヶ月たてば国産牛となる。正確な月例も不明。暴露量も不明。米国牛は血液のみ民主党BSE調査団の報告によると肉骨粉を食べている。羊を使った牛のBSEの輸血感染実験だと24頭中4頭感染している。それら暴露量不明な牛が日本にいるのに、別評価をしないで20ヶ月の適用をするのはおかしい。英国では20ヶ月の発症牛がいて17ヶ月で検出できる。暴露量が高いから別という説明なのになぜ考慮

にいけないのか？

- ・ B S E の自然発生牛。 B S E の発症メカニズム。プリオンの接*はガン細胞の移植と同じではないか。発ガン物質と同じような因子のスクリーニングは進んでいないのか。
- ・ 消費者の理解度の低さがよくわかった。
- ・ 一部の消費者がこまかすぎることを。
- ・ 消費者がどこにリスクを感じているか？事実としてどこにどの程度のリスクがあるのか？
- ・ 日本の消費者が正しい知識を持つこと。 S R M除去の役割が大きいと言いながら検査続行の判断がなされることはおかしいと思う。
- ・ 実情とマスコミ、ミスリードの因果。 2001年9月と同じミスリード。だから大ゲサになる。
- ・ 国内問題だけに限定するのではなく、地球規模での対策も必要。食の安全の視点から、国内と海外の対応策に差異があるのは問題あると思う。
- ・ S R M除去。
- ・ 純粋に科学的な検証を取りまとめるのであれば、リスクの可能性のあるデータが存在する現状では全頭調査を継続すべき結論であるべき。消費者は誰も望んでいない。
- ・ いつ輸入が再開するのか？日本は国際基準よりも自国の規制を重要視し、国際社会で牛肉以外での不利益を被っている点は？
- ・ ゼロリスクを唱える人達の声ばかり聞きすぎてまともな意見がされないため、世界基準に則った管理対策がとられていない。
- ・ 死活問題！殺さないでくれ！誰か自殺したらいいのですか？なんでそんなにリスクの少ない B S E に税金を使い、ここまで議論して消費者団体を怖がるの？一般国民はそこまで考えてない。選択の権利が消費者にはある。唐木先生来てるのになぜ、先生の様な方の内容の講演をしないのですか？
- ・ 対米輸入に関する特定部位除去問題（ S R M除去）と、検査の月令（ 20ヵ月）について、あいまいなまま輸入開始とならない様にと心配しています（若令牛でも回腸で検出される場合があるなど...）
- ・ 牛の内臓を使った加工食品のリスク。飼料の問題。
- ・ 危険部位の除去：吸引で行うと他部位へのコンタミがなくよい方法と云われるが日本の屠畜場でこの設備を持っている処が少ない様なので屠殺時のコンタミが心配である。高感度試験法の 1 日も早い確立が望まれる。
- ・ 検査方法について、生体検査で B S E の判断ができないか。
- ・ 米国产牛肉の輸入再開。
- ・ 全頭検査の見直しについて、この検査に限界がある以上、見直しすべきで、 S R Mの除去で安全性は確保できると思います。
- ・ 米国からの牛肉の輸入条件と輸入再開時期。牛エキス、ゼラチンなどの安全性。
- ・ B S E の科学的安全性。
- ・ 米国における B S E 対策の情報が不足しているので、情報収集を進めて情報公開をする必要がある。
- ・ 消費者がどの様に理解をしているのか？
- ・ 輸入食品、輸入牛、牛肉についての安全性。国内対策の強化。ピッシング、他。
- ・ 牛肉が政策物資化するのをおそれる。
- ・ 日本の B S E 対策の評価はわかりました。しかし、アメリカ輸入との関係が騒がしいことが問題です。今後アメリカ牛の評価をちゃんとやってほしい。
- ・ 海外からの輸入品及び加工品に関するリスク評価。行政の対応（厚生労働省→貿易対応と農水省の連携）
- ・ 屠場での検査のレベルは問題ないのですか？飼料が一番大きな原因と思うが、農水省は「アリのー

- 穴」という表現をしているが、BSE牛の対応をみても、徹底してやっているようには思えない。
- ・全頭検査を維持するのか否か。見直すのか？今の時期の中間報告はUSAに対する配慮をしたのですか？
 - ・月齢の把握。
 - ・科学だけでは食の問題は割り切れない部分がある。BSE問題はその適例と思える。
 - ・死亡牛検査を屠畜場での全頭検査と同時にスタートさせる必要があったのではないか。
 - ・全頭検査の場合に牛肉1kgあたりいくらの検査費用がかかるのか。また20ヵ月未満の牛を除外した場合はどうか。
 - ・検査する、しないの線引きを20ヵ月令とすることにどれだけの科学的根拠があるのか、疑問である。
 - ・リスク評価と今後の発生について、人への汚染について。
 - ・リスク管理の為には現状では全頭検査が大事だと思う。
 - ・個人的には7年間は全頭検査が必要と思う。安心には無駄な検査も必要な時もあると思う。
 - ・現状の対策（SRM除去と検査）だけで本当に安全なのか、日本の牛だけでなく輸入牛の管理はどうなるのか。
 - ・全頭調査の後退、中間報告書の米国牛輸入への影響、マスコミにおける報道。
 - ・日本の検査体制見直し議論と米国産牛肉輸入再開を関連づけるべきではないとする方々もいますが、自然と関連づいてくると思います。科学は世界共通のはずです。安全は科学で解明できます。しかし、その基準となる科学議論そのものがなぜ、日本は特別な基準となるのか大きな関心です。
 - ・米国産牛の輸入再開です。日本のBSE検査のあり方で輸入再開の時期が決まると考えるので…。日本に科学的理論をムシし過ぎているのではないのでしょうか？もっと国際基準をみるべき！！
 - ・アメリカのSRMの確実な除去。アメリカのBSEの実体 - 検査すれば日本より多いはず。アメリカ産牛肉を使用した吉野屋の牛丼を懐かしがる人の神経。
 - ・委員のメンバーには、（１）牛肉は好きですか？（２）牛肉は食べていますか？（３）今後入ってくるであろう米国産牛肉を食べますか？
 - ・リスクは何にでもあるもの。どこで線引きするか。
 - ・BSE牛の安全性評価
 - ・20ヵ月齢以下は検出されないというのは国内のみですか？SRM意外はリスクが少ないということであれば、牛乳は安心という認識が広がっているのに、肉は安全と消費者に伝えて欲しい。
 - ・ほんとうに全頭検査をしないでも安全なのか。やはり不安をぬぐいきれない。
 - ・潜伏期間が一番怖い。
 - ・日本における対策とその効果。BSEはいつ終息するのか。
 - ・検査方法、今後さらに感度のよい検査方法が開発されるのか？どれくらいかかるのか？また、感度がupした場合、20ヵ月以下の検体を再度測定することはあるのか？
 - ・（１）現状（SRM除去方法など）を踏まえてリスク評価が必要ではないか。（２）アメリカのBSE対策のリスク評価。
 - ・輸入牛肉
 - ・米牛肉の輸入再開、安全性。
 - ・エキス等を使った関連商品。手、人、その他の動物等の関わり。国（国会）農水省の対応。
 - ・生産者は消費減不安。消費者はBSE不安。どうやって不安をなくすかが問題。政府の対応のあり方と思う。
 - ・検出の方法。WB法。その他の違い。
 - ・全頭検査以外に安全が保障される安心な検査方法があるのか。

- ・人への感染。食物連鎖からどの程度排除できるのか？
- ・化学的、科学的。
- ・牛肉の輸入について。国内の措置を評価したように、外国の評価も必要である。委員会はなぜE F S Aのように地理的B S Eリスクの評価を行わないのか？この評価は米国の輸入解禁に当たり最もベースになるものである。
- ・B S E対策で消費者に対する食の安全の確保に具体的な説明がなされるか（20ヶ月令以下に分けたことに対し）
- ・今日のリスクコミュニケーションが全頭検査の変更につながる政治性をもっていることです。

附問5 - 1 上記の関心点について、今回の意見交換会は役に立ちましたか？

1) 大変役に立った	9	11.1%
2) 役に立った	32	39.5%
3) あまり役に立たなかった	14	17.3%
4) 役に立たない	10	12.3%
5) 無回答	16	19.8%

問6 今回の意見交換会の進め方についてお伺いします。

1) 満足	9	11.1%
2) やや満足	37	45.7%
3) やや不満	20	24.7%
4) 不満	5	6.2%
5) 無回答	10	12.3%

また、会の運営等で何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・輸入生体牛の質問をしたのに回答がもらえなかった。時間が足らなすぎる。
- ・吉川先生が対応するわけで、問4の行政の姿勢など見えないが、今後も続けて頑張ってもらいたいと思います。
- ・挙手した時に発言の機会のある人がほとんど決まっていり込みない。
- ・特になし。
- ・「中間とりまとめ」については、すでに読んであるという前提に基づいて行えば、最初のプレゼンは不要になり、議論にもっと時間をかけられるのでは。
- ・行政、対米対策が背景にある中でのアリバイ作りは止めてほしい。これを持って消費者の同意が得たと思うな。
- ・毎回出席している方がいるように感じました。悪くないと思いますが意見の偏りが出るのももっとRandomに広く意見が聞けるような場にすべきだと思います。
- ・より広く意見を求めるため夜間に行っても発言するのは消費者の代表ヅラした常連ばかり。委員会もしているメンバーばかりが意見を述べるのではリスクコミュニケーションになっていない。
- ・消費者団体、生協というゼロリスク論者ばかりの発言で、もっと国民を意識したものにすべき。これが国民の総意では世界中から笑われる。食品とは食べるものなので、国民は食べられるのかどうかを言えばいいだけ。前に座った偉い方が世界基準にした場合、牛肉を食べるかどうか、各人が答えればいいのでは？国民が知りたいのはくだらない細かい数字ではない。
- ・出来る限り多数意見をとる配慮がみられて良かったと思います。

- ・ 3つに区分して進めたのが良かったと思います。
- ・ 科学的根拠はよく理解できるが、消費者に説明することに十分であるかという点で疑問が残る。
- ・ 食肉業界からの意見が少ない。
- ・ 意見交換の時間が十分ではなかった。
- ・ もう少し時間をとるべき。これでは不十分。これでリスクコミュニケーションが終わったとは思ってほしくないです。
- ・ 意見（会場）のとり方をもっと考えてほしい。毎回同じ人の発言、同じグループの発言が気になる。
- ・ 網羅的で、リスク評価の部分などについてもっと深く論議をしてコミュニケーションするべきであったと思う。一問一答でのやり方は評価できると思う。
- ・ 消費者団体の方々は、コミュニケーションをしているのか疑問です。既に結論を持って一方的に意見を述べられている様に受けとめられると思います。消費者の本当の声を反映する機会を失っているのではないですか。
- ・ 事前の質問もとって、紙ベースで答える（当日出す）しくみをつくってほしい。
- ・ 検査についてはじめに出た質問の先送りの分について、回答がなかった。
- ・ 質問が「安全の完璧」を求めるものが多く、現状では答えが出来ないようなものが多い。
- ・ 限られた時間内でよくできたと思う。
- ・ 少しは理解出来たから。
- ・ コーディネーター（進行役）が適切でない。もう少し時間が必要。リスクコミュニケーションのリスク管理をはじめとする今後のいかし方。
- ・ 一般消費者の意見がなかったのが残念だった。
- ・ 今日の会に限らずいつも同じ方ばかりが発言されていて、他の方々の意見が聞けず残念です。せっかく参加したので、意見を聞いて頂きたかったが全く発言できず、がっかり致しました。
- ・ タダのガス抜き？
- ・ 問3 参照。
- ・ 保留にしたものの回答はどのようにするのか。
- ・ 行政がかなり率直に話しておられたのを評価したい。
- ・ 消費者にわかる言葉で常に説明するべき。専門家であるならば専門家であればこそ理解してもらうために努めていただきたい。
- ・ 委員側の誠意はよく伝わったと思います。
時間をもっと掛けて十分意見が聞きたかった（参加者の）、（全国で2ヶ所しかないので新幹線を使い、夜なので最終ダイヤを気にしての参加です）会場ロビーでの分煙対策をしっかりと行ってほしい。
- ・ 吉川・金子先生はとてもわかりやすいお話を聞いてありがたくと思いますが、全く違った先生の話も入れてほしい。だいたい来ている人が同じ様に思うので、いろいろな先生の話を知りたい。
- ・ 無作為に抽出することも必要なのではないか。拳手であると、発言が偏ると思います。
- ・ 司会の方にもっとはっきりしゃべってほしかった。
- ・ こんな貴重なコミュニケーションをなぜ8時半で打ち切るのか。もっと徹底してやるべきだ。
- ・ 会場は良かった。座っているのがつらい会場があるので十分に配慮されたい。
- ・ これでおしまいですよ、というニュアンスを感じました。なぜ、いまこの時期に中間まとめを出したのか、という質問にはきちんと応えるべきでした。事務局は....。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て

選んでください。

1)	委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	48	59.3%
2)	食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等）	68	84.0%
3)	食の安全ダイヤル	29	35.8%
4)	食品安全モニター	32	39.5%
5)	食品の安全性に関する政府広報	28	34.6%
6)	その他	3	3.7%
	・ 委員会のリーフレットなど、季刊紙「食品安全」		
	・ 意見交換会の議事録をＨＰで！！		
	・ 消費者出版物		

附問 7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ 今後も取り組みを続けてください。
- ・ もっと早く案内として発表してほしい。
- ・ あなた達は国民のための委員会なのか？行政サイドのための偽善としかかんじなかった。
- ・ なんでも反対の方の意見は意味ない。民主党や共産党の意見をすべてききますか？
- ・ 「食品安全」の季刊紙が創刊されたことは大変喜ばしい。唯あまり紙質など上質すぎて、コスト高になったのでは？次回からもっと紙質を落としてでも部数を多く印刷され、広く消費者の目に触れ、手に取る様な工夫を是非お考え頂ければと思います。
- ・ 安全を安心として説明することは行政の責務である。
- ・ 消費者からの要望により、食品安全委員会がリスク評価するしくみがあるのか。
- ・ 講演飼料のパワーポイントが全てついていないのでつけて。講演中の内容をページをくくることが多く聞いている方も散漫となり、内容を理解ができないことがある（あった）。
- ・ 今回みたいに夜にやってくると傍聴できる。
- ・ 検査内容に関して、政治的に利用されないよう、安全委員会には責任がある。
- ・ ＰＲ不足。
- ・ 消費者、誰も見られるもの（新聞・テレビ）などで色々なこと（委員会のこと）を知らせて欲しい。
- ・ 情報開示を熱心にしておられることは良いと思う。
- ・ 各々の立場の違いから、意見がかみ合わないことは当然のことで、個人的には、委員サイドの対応は十分なアカウンタビリティを果たしていたと思います。委員の方達には全国で同様の行脚をしなければならぬので、毎回同じような問答になるのだらうと想像しますが、毎回、常に最初の時と同じような真摯な気持ちで臨んでいただければと思います。それだけ消費者は真剣かつ重要事項としてとらえているのです。
- ・ 外国の地理的ＢＳＥリスクの評価を実施すること。実施をしないということであれば、その理由を明示すること。質問者に数台のカメラを向けるのは気の弱い人をコメントしづらくするので、適当でない。

食品に関するリスクコミュニケーション（大阪）概要
—日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策の検証に関する意見交換会—

- １．日 時：平成１６年９月１８日（土）１３：３０～１６：２０
- ２．場 所：大阪科学技術センター 大ホール（大阪市西区靱本町１－４－８）
- ３．主 催：内閣府食品安全委員会
- ４．参加者：１０７名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）
- ５．議 事
 - （１）開会挨拶 寺田雅昭 食品安全委員会委員長
 - （２）講演
「プリオン専門調査会における調査審議の経緯及び『日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策について—中間とりまとめ—』について」
金子清俊 食品安全委員会プリオン専門調査会座長代理
 - （３）会場との意見交換（主な意見、質問）

．リスク評価について

- ＢＳＥ対策以後の評価について、と場のピッシング対策等にも踏み込んで欲しい。
- 管理評価について今後も資料の提出を求めるなど、評価を継続していくのか。
- 検出限界以下の牛を検査対象から外すことが感染リスクを高めることにならないと
なぜわかったのか。
- 米国産牛肉の評価は、日本の食品安全委員会で慎重に行って欲しい。
- 今後２０ヶ月齢以下の若い牛で検出できる牛が出る可能性もある。安全限界は幅を持
たせて１６ヶ月などとすべきではないか。

．全頭検査について

- 「２０ヶ月以下で検出困難」がどうして「全頭検査廃止」につながってしまうのか。
正確な報道をお願いしたい。
- ２０ヶ月以下でと畜される牛が全体の１割程度なら、全頭検査を継続すべきである。
- 日本でのＢＳＥ発生例はすべて乳牛である。２０ヶ月以下の検査をしないと、危険度
が高い去勢ホルスタインの半分を外すことになる。
- 「中間とりまとめ」が米国産牛肉輸入再開に直結するという報道が多い。日米のリス
ク評価、リスク管理を明確に分けて議論すべきだ。

．その他

- 若齢牛のプリオンを検出できるといわれているＣＤＩ検査法について教えて欲しい。
- ヒトのプリオン病の治療法を早く確立してほしい。
- ホームページ以外にも広く意見交換会の開催を知らしめる方法を考えてほしい。

- （４）閉会挨拶 見上 彪 食品安全委員会委員

「食品に関するリスクコミュニケーション（大阪）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004 年 9 月 18 日（土）

参加者数：107 名 回答数：65 名（回答率 60.7％）

問 1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	29	44.6%
2) 農林水産業	0	0.0%
3) 食品関連事業者	11	16.9%
4) 食品関連団体	4	6.2%
5) 研究機関	0	0.0%
6) 行政関係	17	26.1%
7) マスコミ関係	0	0.0%
8) その他	4	6.2%
・ 分析機関（1）		
・ 教育機関（1）		
・ 大学非常勤講師（1）		
・ 大阪あべの辻調理師専門学校講師、食品安全モニター（1）		

問 2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	20	30.8%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	16	24.6%
3) 関係団体からのご案内資料	16	24.6%
4) 知人からの紹介	10	15.4%
5) その他	5	7.7%
・ メルマガ（1）		
・ i n t e r n e t（1）		
・ 近畿農政局大阪事務所（1）		
・ 大阪府食の安全・安心府民会議、大阪農政事務所（1）		
・ 行政（農政事務所からの案内）（1）		

問 3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	21	32.3%
2) やや評価する	33	50.8%
3) あまり評価しない	5	7.7%
4) 評価しない	4	6.1%
5) 無回答	2	3.1%

評価理由・

- ・ より多くの方が意見を言えるように時間の厳守を。テーマをしぼると意見が言いにくいのでは？結果的にバラバラだった。
- ・ 消費者の素朴な疑問・不安をしっかりと聞いてほしい（中間とりまとめの中味だけでなく）。そうすることがより理解が深まると思う。
- ・ 安全委員会の生の声を聞くことができた（報道ではわからない部分について）。
- ・ アメリカのリスク管理についても評価して欲しい。
- ・ 結論が出てしまっていて、意見を取り上げて考える姿勢がないように思えた。BSEについては勉強になりました。
- ・ 司会の西郷さんに問題あり。都合の悪い部分はにげてしまっている。
- ・ もっと“意見交換会をする”ということを一般の人にわかるように広報して欲しい。
- ・ 中間報告書として、科学的データによりよくまとまっている。今後、さらに掘り下げた評価と検証を期待する。
- ・ 30ヶ月令についての説明が不十分。
- ・ 第三者（マスコミ等）を介しての情報と本日の話とは、若干ニュアンスの違う部分がありました。この点で、リスクコミュニケーションが評価できる点ではあります。
- ・ 広く国民とのリスクコミュニケーションという点では不十分。内容は専門的であるし、参加者も一般の消費者とは思えない。
- ・ 金子さんと寺田さん、意味的に、同じことを言っていない。
- ・ 一定のまとめとしては評価しても良いが一。一般公募も必要だが、内容をもっと深められる意見交換会が必要だ。
- ・ 非常にわかりやすくVCDについて、またプリオンの説明をしていただき、わかりやすかった。
- ・ 消費者の意見は重要であるが、時間的に考えて意見発表などもう少しまとまればと思います（おば様の）。
- ・ 交換会の場を設けられたことが一番大切だと思う（講演会、交換会の場はとても重要）。いろいろな方が参加したら良いと思う（消費生活団体の方がいつも多い）。
- ・ やらないよりやる方が良い。
- ・ 1、金子先生の講演および意見交換時のコメントは大変良く分かり、消費者のことも良く理解した発言であった。非常に評価できる。2、司会者がリスク評価についての意見を強引に傍聴者から引き出そうとしていることが気に入らなかった。報告書を書かなくてはいけないのか知りませんが、誰のための中間報告、意見交換会なのか、わきまえてほしい！！リスク評価について（数字について）意見がなかったということは、リスク評価をしても何も

意味がないのでは？という国民の意見だと思って下さい。評価して何が変わる？

- ・ もっと食品安全委員会にがんばってほしいと思います。その点で、リスク管理機関に対して、踏み込んだものであってほしいというのが理由です。
- ・ 直接話を聞くことの重要性。政治に利用されないで！
- ・ 専門調査会の金子氏は真しにおこたえいただいたと思うが、食品安全委員会として、マスコミ報道に対する責任について真剣にうけとめていない。
- ・ テーマ設定を絞りすぎて、はじめ質問がしにくく感じました。論議の時間はもう少しあってほしいと思います。
- ・ 安全委員会でまとめても、政治決着で別の方向にゆがめられないか。米国輸入解禁について。
- ・ 20ヶ月以下を全頭検査から外すという政府の方針は変わっておらず、一般市民のガス抜きのための会合であるようにしか思われぬ。非常に失望した。
- ・ 大阪にまで説明にこられてご苦労様です。責任のある立場の方が直接お答えになり有意義です。
- ・ 化学的な分析にもとづいて、リスク評価をしたものを公開していただいた上で、一般消費者の意見を考慮して下さる姿勢はありがたい。
- ・ マスコミにてひとりあるきすることとをきちんと申し出するという態勢をされるという答えを。
- ・ 金子先生の説明はよくわかりました。松本参事官の説明はよくわからない。
- ・ 募集の方法がせまい範囲で知る人が少ない。事業者、生産者からの意見がなかった。
- ・ 意見を交換できる場があるのはよいことだが、この場で出た意見を今後どう生かすかが重要だ。
- ・ 沢山の意見を聴いて頂いた点が良かった。
- ・ くわしく内容を知ることが出来た（食品安全委員会の）。
- ・ 業界（関連事業者）からの意見がなかった。
- ・ 会場との意見交換がよくなされていた。
- ・ 金子先生の正直な対応に安心できたから。
- ・ どうしてもBSE問題では消費者団体による見直し反対論の発言が多くなってしまう。事業関連者は事業利益の為のようにとらえられやすい為に発言しにくいものです。もっとも重要なことは、科学的・論理的考え方を国民に理解させること。主張の場ではないと思う。委員会はそれを強くアピールして欲しい。
- ・ 過去には、消費者とこのようにリスクコミュニケーションは開催がなかったし、少なかったが、このように開催されてうれしい。専門的、役所的開示でなく、新しいリスクコミュニケーションをとる新しい民主主義のわく組みでうれしい進歩である。
- ・ 少し内容が幅広すぎたため、話を聞きながら資料をめくる動作に自身バタバ

タした。

- ・ 屠場におけるSRM除去の徹底についての厚労省の説明は、現場を知らない人の声。現場が受け入れられる施策を！

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | |
|-------------------------------------|----|-------|
| 1) 広く関係者の意見を聴き、意見交換する行政の姿勢がみられた | 31 | 47.7% |
| 2) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた | 32 | 49.2% |
| 3) 対行政だけでなく、立場の異なる関係者間での意見交換が大切と感じた | 16 | 24.6% |
| 4) 意見交換としては、不十分だった(時間的・内容的) | 13 | 20.0% |
| 時間的(2) 内容的(4) | | |
| 5) 行政の一方的な説明に終わって、運営に不満を感じた | 3 | 4.6% |
| 6) BSE対策について理解が深まった | 25 | 38.5% |
| 7) その他 | 9 | 13.8% |
- ・ 消費者がもっと多くの意見を出せるようにすべき(小さなことから大きなことまで)。説明が長い。テーマごとの発言を求められたので、どこで手を挙げていいか分からなかった。
 - ・ 委員会の方は、20ヶ月という結論が一人歩きして行政に利用される責任を自覚してほしいと思います。
 - ・ 一応実施した、実績を残しただけ。
 - ・ ファイナルアンサーだったなという感じです。9/21の首脳会談待ちですね。むなしいけれど...
 - ・ 安全委員会はもっときりっとして下さい。リスク評価のみにとどまらず、国民の安全までみとどけて下さい。中間報告とアメリカ牛輸入解禁と関係ないといわれても、マスコミからだけのニュースを得ている一般国民は、そのように理解すると思う。
 - ・ 金子先生がスライドの方を見て話をしているのは、消費者に対する説明と思えない。学会説明のよう。前を見て(下の紙でもいいが)話してほしい(態度は誠意のあるほうだが)。小数点以下だが、人への感染への可能性の計算は、1999年生まれの子が出たので変わるのでは。また、1996、3~4の牛はあまりと畜場へまわっていない。この実態は、肉骨粉工場でわかる。免除率はあがる。まして、1999年の牛で初発だと、もっとふえる。
 - ・ いつも急です。

- ・ この意見交換会でだされた意見なり要望がどう食品安全委員会に反映するのか。まったく反映されていないのではないか。
- ・ 消費者の勉強不足。

問 5 BSE 問題について、どのようなことに関心がありますか？

- ・ B S E の原因究明をお願いしたい。感染後の対処方法がないことが不安。また原因がはっきりしないことも不安。B S E に汚染された肉骨粉が、どの程度日本中にあるのか？本当に肉は大丈夫なのよね～。それより医療感染の方が恐いかもしれない。
- ・ 全頭検査で日本の牛肉は安心できると思っています。完全じゃないかもしれないが、これが20ヶ月齢以上の検査になるのではと不安です。S R M の完全徹底ができるのかも不安材料です。
- ・ 全頭検査の見直しについて、20ヶ月の線引きが適当かどうか。省令の改正について。
- ・ 全頭検査が中止されるのは不安なので、しかも米国の管理不十分の牛肉が輸入されるのも不安です。
- ・ 米国産牛肉の件。
- ・ 米国ビーフの解禁時期。
- ・ 検査に限界あるから、で全頭検査を変更するのはおかしい！
- ・ 20ヶ月齢牛は、10%であることがわかりました。10%の事ぐらいで全頭検査をしないのは、米産牛の再輸入が見え見えではないか。
- ・ 牛から人への感染（科学的根拠）。プリオン異常タンパク（タンパク質の変性）。
- ・ 牛から人への感染。
- ・ 全頭検査見直しの背景と、アメリカ輸入牛肉との関連と政治的背景。
- ・ 全頭検査を見直せば輸入再開と報道しています。米国のB S E 対策に関わるリスク評価が、日本の食品安全委員会で慎重に行われなければ、米国の牛の輸入再開は実施できない。
- ・ 専門性が必要。分かりにくい部分が多い為、正確な情報が消費者の判断の基準になるものと思われる。この点で、マスコミ等への情報発信では、適切な内容が提供されるべきだと考える。いたずらに混乱をまねかない。まして、輸入牛肉問題がからむ点で、慎重であるべきだと思う。
- ・ 食品安全対策が利害関係（業界・党派等）で決められていくことに最も不信感を持っている。ここまで無策にしてきた責任者が明らかにされていない。
- ・ トレサービリティのこと。また、安心して牛肉を食べたいと思う。アメリカも輸出したければ日本並みのトレサービリティを確立するべきだと思った。
- ・ B S E ...異状プリオンを持った牛の肉をもしも食した場合“量的”にどの位の量と頻度で数年後の発症するのか知りたい。ホルスタインは乳牛...牛乳は何故OKなのか。

- ・ 食肉に、牛の履歴をつけてほしい。危ない時期（発生の多い時期）の牛の牛肉への表示（赤丸表示）。食品安全委員会の先生方への謝金（高額すぎないかどうか？公表してほしい）。
- ・ 検出限界（分析方法含む）。今後の行政の方針。
- ・ 国内での対応は消費者の安心を守る点でよいと思う。輸入についてのリスク管理を、しっかりしたリスク評価をしていただきたい。今の日本との違いがありすぎると、この間のコミュニケーションでの情報できました。
- ・ アメリカ産牛肉の輸入解禁（アメリカ産牛肉の安全性をどう確保するつもりか？）。
- ・ S R M除去の徹底が今後最も重要。予算措置も必要だと思います。検査と、二重の安全弁を設けていく事。
- ・ 20月齢以下の検査解禁について。
- ・ 米国肉牛における肉骨粉問題。牛の肉骨粉がニワトリやブタの飼料として売られており、交叉汚染の r i s k が非常に大きいこと。
- ・ アメリカ牛肉の輸入解禁の動き。
- ・ 牛の危険特定部位について。どの部位まで危険とみるか。国によって異なる。
- ・ 全頭検査について。
- ・ 検査法。検査対象月齢。
- ・ ヒトに対する感染性・安全性。関連業者に対する啓蒙・教育。
- ・ 不確定部分があり、検出限界もある中での対策。偽装や輸入肉の対応。
- ・ B S E が把握できていないことが、我々にどのように影響するのか関心がある。
- ・ やはり一般の人はアメリカ輸入のことに関心があるみたいで、勘違いのまま参加したいといっています。
- ・ マスコミ対応。
- ・ 検査法について。
- ・ 検査、プリオン解明。今後米輸入肉に与える影響。
- ・ 情報公開。
- ・ 発生国（米国）からの輸入問題。全頭検査が続くか、検査月齢が定められるか。C J Dとの因果関係。S R Mに全腸が指定されるか。と畜場の改善について。
- ・ 検査について。牛の生体から採取した組織・血液による検査を早急に開発して頂きたい。
- ・ アメリカは全頭検査は非科学的であると言っていること。
- ・ 会議の中でもあったマスコミの報道について。20ヶ月問題。私は今のまま、やはり全頭検査すべきだと考えています。
- ・ 輸入牛に関してのB S E対策は？少し心配です。中間まとめが、リスク管理（農水）でどう進められるのか心配です。より安全の方向性でのまとめがあ

ればと思いましたが（２０ヶ月、２１ヶ月の判断など）、１００％ＳＲＭ除去のお願い。

- ・ ＢＳＥにとどまらず、私たちの周囲ではとりインフルエンザ、コイウィルス、こうていちく病... どんどん出て来ます。より早い情報の早い発信をお願いします。
- ・ 中間報告を受け、厚労省はこれまでの管理対策を見直すのか。
- ・ 牛から人への感染リスクの具体的な検証。ＢＳＥ検査とＳＲＭ除去により感染リスクがほとんどないことがわかっているのなら、米国牛も輸入可能にしていくようなコミュニケーション方法。
- ・ ＳＲＭ除去はと畜場で行われていますが、プリオン危険率からみてせき柱が２０％程度あると思う。せき柱は牛肉販売業者で除去している。ただ、牛肉（悪玉プリオン）を食べなければＯＫとはなっていない。流通している牛はＢＳＥ検査の陰性のもので心配ないと思うが今のところ０でない。と畜場の職員、食肉店の職員さんは大丈夫が少し心配（マニュアルにより除去されているが）。
- ・ ＵＳＥの解禁がいつになるのか？早くしてほしい。
- ・ ＢＳＥ（牛）→ｖＣＪＤ（人）への危険性について。その為に今なにをなすべきなのか。
- ・ 対象月齢についても、各論はリスク対費用の観点で行って欲しい。３０ヶ月以上にすればかなりのコストダウン（節税）になり、しかも、今までの感染牛例は高齢牛なので問題ない考える。非定型的ＢＳＥ（２１、２３ヶ月）の例は特例であり、それらに関してはＳＲＭ除去により公衆衛生は守られていると考えても良いと思う。
- ・ 検査方法（精度を高めた）の向上。
- ・ ＢＳＥ牛の牛血液中のプリオン存在が全くないという事でない為、特定危険部位以外の筋肉にもプリオンは存在しているのだから、知らずに牛肉を摂取しており、リスクは少ないがＤＮＡに蓄積していかないか？
- ・ 日本でののはよく分かったが、海外ではどうか？安全と安心は別。「安全」に関してはなるほどと思ったが、「安心」についてはなかなか「合点」がいかない...。アメリカ牛の輸入解禁と消費者はばっちくなりすぎている。
- ・ 政府、行政、業界、団体の不正行為も風評リスク発生の原況と思われる。
- ・ 中間とりまとめＰ２０　５～６行の表現が意味不明である。～「確認することができなかったことは、今後のわが国のＢＳＥ対策を検討する上で十分考慮に入れるべき事実である」とは、誰に向けて発信した文書なのか。全頭検査廃止の呼び水になっていることは事実。その役割を果たすことと、文書とは整合性をもつのでしょうか。
- ・ 生産者への過度の負担。

附問５－１　上記の関心点について、今回の意見交換会は役に立ちましたか？

1) 大変役に立った	7	10.8%
2) 役に立った	32	49.2%
3) あまり役に立たなかった	9	13.8%
4) 役に立たない	4	6.2%
5) 無回答	13	20.0%

問6 今回の意見交換会の進め方についてお伺いします。

1) 満足	7	10.8%
2) やや満足	32	49.2%
3) やや不満	9	13.9%
4) 不満	7	10.8%
5) 無回答	10	15.3%

また、会の運営等で何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・ リスクコミュニケーションってむずかしいねー。どうしたらもっとわかりあえるんだろう。今日来ている人は、かなり予備知識を持っている人たちばかり。ほとんどの国民は、異常に恐がっている人と、全く関心のない人とに分かれている。基礎知識がないところから説明をすることは大変だと思いますが、今後ともわかりやすく伝える努力をお願いします。
- ・ テーマごとの発言は主婦にはハードルが高い。
- ・ 運営というよりも、一般参加者の質問レベルを高めないといけないと感じる。運営はまあまあだと思う。
- ・ 現状問題の本質をにげている。
- ・ コーディネートの仕方が良くなかった。
- ・ 進め方（西郷さん←すみません、名指しで）。2～3の意見を発言した後、担当の方々へ回答して頂くようにする。多くの消費者の声を聞けなら、1問1答では意見が述べにくい。もう少しコーディネーター方、うまくまわしてほしい。前回の意見交換会はわかりやすかったのに。
- ・ コーディネーターの話されていることが不明りょうで聞き取れない部分が多く、はっきり話される事は伝えきってほしかった。
- ・ 出された意見がいかに関心されている（いく）のか、回答しきれないこと。含め、一般に広く周知する必要がある。
- ・ 国内において...検証し、とりまとめた報告は出されたかも知れませんが、食品安全委員会の役割の中に、輸入肉については（政治的な為）我々委員会は介入しないーと表明されたように感じた。何の為の安全委員会か。これでは委員会そのものに、信頼の評価できない。
- ・ 質疑応答の時、テーマとちぐはぐな質問が多く目立ち気になった。皆が最も気になっている部分、検査月齢の基準、アメリカ牛肉の輸入解禁問題を重点

的に話し合った方が良かったのではないかと思います。

- ・ 3部構成や質問の仕方等は、紙にまとめておいて下さい。(チンの音は機械的に2分できらず、様子を見て)→それより長く話しているからまあいいかな。
- ・ 問3で書いた通り、とにかく司会者が×！！見上氏、斉藤氏の壇上での態度が非常に悪い。発言しないのならないほうがまし。大変不愉快！！腕を組んでふんぞり返っているパネラーがどこにいますか？
- ・ 当日の運営として、急に分かつをいわれ、整理できずこまった。
- ・ こういう意見交換会が言い訳づくりに利用されている気がする。
- ・ 一般消費者の意見を聞け！日本の主権者は米国大統領なのか？？米国牛輸入問題の意見交換会を夜、週末に開いてほしい。平日昼間では通常のサラリーマンは出席できない。
- ・ 意見としては、消費者の不安な点が多い。牛20ヶ月以下についての安全保障がない。米国牛輸入の政治的背景に囚われないでほしい。
- ・ 講演はもう少し配布資料とスライドの関係を詳しく説明して欲しかった。
- ・ 長いポイントを得ない質問や意見を避けるため、事前に申込時点で質問を書いてもらって、多かった質問等に答えていたらよいのではないかと思った(時間がきたら鐘を鳴らしてもらっても、話されている方も多かったのだ)。
- ・ 時間オーバーの人はやはりルールにのっとるべきでしょうね。けれど、ちゃんと答えて下さる受け手の態度も良かったと思います。
- ・ 司行役の人の話がききとりにくい。話し言葉の語尾が聞き取りにくい。アメリカ牛輸入再開とは別のことと言われるが、そうは思えない。20ヶ月令は検出しにくい。20ヶ月令と検査を限った場合、アメリカ牛の正確な年令把握は困難です。全頭検査を廃止することは偽装のもと。
- ・ 質問の時間が短い。
- ・ 出席者はある意味プロ、参加者は素人なので、質問が下手な場合が多いので、コーディネーターが少し引き出すように努めるか質問時間を長くして欲しかった。
- ・ 案内で地図をつけてほしい(道に迷い遅刻致しました)。
- ・ やはりもっと周知されると良いと思います。
- ・ やはり、答えは用意されていたものばかりでした。
- ・ 質問意見交換の時間が前回(8/26)よりも長くともってもらっていたのでよかった。ただし、最初の説明の時スクリーンと資料がちがいとまどった。
- ・ 主婦の片寄った意見が多すぎ。主婦の不満が意見交換会ではない、不満大会だ。
- ・ 実績作りの為のコミュニケーションはするべきではないと思います。
- ・ 見直し反対の意見が多いのは、消費者団体が組織的に参加し、全国の交換会で組織方針を述べている為。科学的、論理的には見直しは妥当なものであることを認めようとはしない姿勢なので、いくら専門調査会が説明しても無駄

なのかも知れない。科学的、論理的思考方法のレベルが違うので、科学者の方々には申し訳なく、同情申し上げます。

- ・ 会場から発言もあったが、米国牛輸入とリンクしたものとして「中間とりまとめ」が活用されることのないようにしてください。
- ・ 十分に時間がとれて良かった。ごく一般の消費者にどう情報をわかりやすく伝えていくか...（消費者側の学習も必要だが...）

問 7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

- | | | |
|---|----|-------|
| 1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること） | 32 | 49.2% |
| 2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等） | 43 | 84.0% |
| 3) 食の安全ダイヤル | 19 | 66.2% |
| 4) 食品安全モニター | 27 | 41.5% |
| 5) 食品の安全性に関する政府広報 | 27 | 41.5% |
| 6) その他 | 2 | 3.1% |
- ・ 全て知っているが、一般的に市民が身近に活用できるようになっていないと思う。
 - ・ 特にない。

附問 7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ もっと身近なところでも開催してほしい。
- ・ H P 上では情報収集はしやすい。しかし、ツールはたくさんある方が良い。
- ・ 最新の情報提供。
- ・ 今回初めて参加申し込み方法を W e b で調べて F A X で行ったが、わかりやすく大変良かった。行き届いていると感じた。
- ・ B S E だけでなく、食の安全は純粋に安全ということだけでなく、“利益”がからんでくるから大変だなと思う。
- ・ 全体的に科学者、委員の方は誠実な感じはしたが、より積極的に不明な点も含めて、発表をしていって下さい。冷房が効きすぎ。エネルギー使用のムダ。こういう点への最初から配慮をしてほしい。薬用のゼラチンの安全性は？スープの安全性は？
- ・ 電子媒体で利用しやすいので、今後も充実したものを期待します。
- ・ 広報の工夫を（わかりやすさ、タイミング、量）
- ・ おわびがありましたけど、資料（金子先生）のスライドはちゃんとしたものがあると良かったです。

- ・ 中間とりまとめの位置付けをもっとはっきりと国民に周知すべきであった。プレス報道が行きすぎであると思うのであれば、委員会は国民に安心を与えるための対応を即時にとるべきである。
- ・ 会場からの意見もありましたが、食品安全委員会の名称には不満です。安全委員会が発表したことはすべて安全とイメージしやすい。食品検討委員会とすべきでは。
- ・ 一般消費者や生産者も含めて。
- ・ 食品安全モニター会議をもっと定期的にひんばんに（１ヶ月１回程度）行ってほしい。モニター同士の研究会のような会があったらよい。
- ・ 意見交換会後のアンケート結果を公表して欲しい。見直し賛成意見も多いのではないか。このままでは消費者団体による意見が国民全体の意見に聞こえてしまい、一方的である。
- ・ 問６に回答したが、ごく普通の消費者への「伝え方」(わかりやすい言葉での表現を使用して)に工夫が必要。特に「食の安全」の知識がない人でも、ＢＳＥ等とても関心持っている。今だ「牛肉はどうもね…」と言われている人多し。

食品に関するリスクコミュニケーション（名古屋）概要
- 日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策の検証に関する意見交換会 -

- １．日 時：平成１６年９月２７日（月）１３：３０～１６：２０（２０分延長）
- ２．場 所：名古屋市工業研究所管理棟１Ｆホール（名古屋市熱田区）
- ３．主 催：内閣府食品安全委員会
- ４．参加者：５９名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）
- ５．議 事：
 - （１）開会挨拶 寺田雅昭 食品安全委員会委員長
 - （２）講演 「プリオン専門調査会における調査審議の経緯及び『日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策について - 中間とりまとめ - 』などについて」
食品安全委員会プリオン専門調査会 山内一也
 - （３）会場参加者との意見交換（主な意見・質問）

．ＢＳＥ問題全般について

- 米国から全頭検査不要論が出されたことに消費者は不安を感じる。
- ２０ヶ月以下を検査から除外する方針を１０月中旬に決定するとの新聞記事の真意について教えてほしい。
- 日米交渉において食品安全委員会がオブザーバーというのは納得がいかない。

．リスク評価について

- 全頭検査には検出限界があることをＢＳＥ発生当初に説明していないため、消費者は検査で陰性のものをゼロリスクだと思っている。
- 検出限界は月齢ではなく、どれだけプリオンが蓄積しているかであって、原因などが全くわかっていない病気なので全頭検査の方が科学的だと胸を張ってほしい。
- v C J D患者発生のリスク推計は楽観的すぎるのではないか。

．リスク管理措置について

- 製造業者から、ＳＲＭ除去が完全実施されていることについて公共機関からお墨付きがほしい。
- 食肉事業者から、ＳＲＭの完全除去のためにと畜場法の施設基準を改正すべきではないか
- ピッシングは、欧州では完全に禁止しているので、日本においても厚生労働省が積極的に指導して廃止すべきではないか。
- 死亡牛検査の実施が遅れたので、感染牛はもっと多かったのではないか。
- 豚肉骨粉の給与解禁という報道があったが、交差汚染の危険はないのか。

- （４）閉会挨拶 小泉直子 食品安全委員会委員

「食品に関するリスクコミュニケーション（名古屋）」
～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
アンケートの集計結果

開催日：2004 年 9 月 27 日（月）

参加者数：59 名 回答数：40 名（回答率 67.8%）

問 1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	13	34.2%
2) 農林水産業	0	0%
3) 食品関連事業者	7	18.4%
4) 食品関連団体	1	2.6%
5) 研究機関	0	0%
6) 行政関係	15	39.5%
7) マスコミ関係	0	0%
8) その他	2	5.3%
・ 食品安全消費者モニター（1）		
・ 独立行政法人(1)		

問 2 本日の意見交換会は、何かからお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	10	25.6%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	10	25.6%
3) 関係団体からのご案内資料	12	30.8%
4) 知人からの紹介	5	12.8%
5) その他	2	5.1%
・ 農業新聞（1）		
・ すでに申し込みをして参加証着後に、9 / 2 3 食品安全委員会から案内が届きました（1）		

問 3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	5	12.5%
2) やや評価する	13	32.5%
3) あまり評価しない	11	27.5%
4) 評価しない	4	10.0%
5) 無回答	7	17.5%

評価理由・

- ・ 議論の時間が足りない気がしました。テーマをしぼる（そのデメリットもありますが）会も必要かと。

- ・ あらかじめこうした会の案内が多くの人に伝わっていない。土・日など、働いている人にもこうした機会が与えられるべき。
- ・ 山内先生のお話が聞けた。直接関係した方の話は大切。
- ・ 初めから結果ありきの気がする。専門部会と安全委員会と行政のズレを感じます。
- ・ 意見交換会に限らないが、交換会を実施した内容がいかに食品安全委員会の活動内容に反映されたのかの説明が、今後重要になるのでは。そうでないと、意見交換会を実施した意味が国民に理解されず、存在意義が問われることになる。
- ・ 参加人数が少ない。
- ・ 参加者が参加しやすい形にしないと、開催しただけにならないか。参加者の納得が得られたか疑問。納得を得る方法を工夫して欲しい。
- ・ 募集自体が早く広く知らされず、実施したという事実を残したにすぎなくなりますよ。早目をお願いします。
- ・ 今回で4回目。言葉の理解が深まると同時に、より不安も大きくなりました（単に周知徹底させる為の場をもうけているのではと）。
- ・ 検査もSRM除去も、それぞれの役割があり、どちらかに変えられるものではない。山之内先生のご意見。
- ・ 自己の考えが他者にはどう感ずるか。まわりの情勢を客観的に見直す機会として有意義だと思う。
- ・ 総論に終始した回答しか出なかった。
- ・ もっと各出席者の質問に的確に答えて下さい。先生方へ。
- ・ 意見陳述会ではあるが、今後の国の施策に消費者の意見が反映されるようなヒアリングの場にすべき。多くのこのような場で感じることだが、壇上の方の多くが、自分が消費者であることを忘れていているような印象を受ける。
- ・ 多くの聴講者がさまざまな意見を持っているなということがわかった。
- ・ 相互に意見がかみあわない。いいっぱなしという感じ。
- ・ SRM除去の精度は誰が責任とるのか？全頭検査よりも重要なSRM除去をと考えるのか。
- ・ 質問の答えになっていないと思われる回答が多かった。
- ・ 行政と消費者の直接的な対話はやはり必要だと感じました。
- ・ 疑問が増えた。時間が不足。結論をもっとの説明のように思えます。
- ・ 食品輸入国日本で食品安全は必要です。私達消費者にとって安全について関心を持っています。
- ・ そうでは無いと言われますが、まとめの言葉に唐突に「全頭検査よりSRM除去の方が数十倍有効」と出てくるのを聞くと、初めに基準緩和の結論ありきとってしまいます。会場内の意見は100%緩和への危見ではなかったですか？まだまだ未知の病気である事を率直に受け入れ、検査精度を上げる事を素直に進めて行って欲しい。

- ・ 質問者が特定された考えの持ち主。
- ・ 参加人数が少なすぎます。宣伝が足りないから？
- ・ 会場からの意見・質問と、主催者側の回答説明がどうもかみあっていないように思われる。
- ・ 特定の参加者が各地の意見交換会に連続出席し、発言するというのは機会均等、及び発言内容にかたよりが生じている。
- ・ Qに対して明確なAをしていない。
- ・ 食品安全委員会の方向が直に山内先生に話を聞き理解できた。
- ・ 何をしたいかは分かった。
- ・ 出席者の中に特定の団体が意見を言う場が多かった。もっと幅広い消費者層の参加求めるべきである。
- ・ 話の内容をもっとわかりやすくする必要があるのでは。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | |
|--|----|-------|
| 1) 情報を公開していこうとする行政の姿勢が見られた。 | 9 | 22.5% |
| 2) BSE 対策について理解が深まった。 | 9 | 22.5% |
| 3) 会場参加者と行政関係者との意見交換が出来ていて良かった | 7 | 17.5% |
| 4) 意見交換というより一方通行の意見表明をする場になっていた。 | 8 | 20.0% |
| 5) 行政関係者の話をもっと聞きたかった。 | 13 | 32.5% |
| 6) もっとわかりやすく簡単に解説してほしかった。(まだまだ難しくりかいしにくい) | 8 | 20.0% |
| 7) 講演時間を十分とって背景なども含めて説明して欲しい。 | 6 | 15.0% |
| 8) 講演時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとって欲しい。 | 4 | 10.0% |
| 9) 偏った意見が目立っていたように思う。 | 7 | 17.5% |
| 10) 講演資料が分かりやすかった。 | 3 | 7.5% |
| 11) 意見交換だけではなく、もっと内容について議論する事が必要だ。 | 13 | 32.5% |
| 12) その他 | 6 | 15.0% |

- ・ 消費者等、参加者の意見・質問をあらかじめ集約し、それを1つの意見交換会の資料にすると効率が良くなるのでは？
- ・ 参加者が少ないので、質問に対していねいに答えてほしかった。司会のまとめ方、進め方は大変まずい。
- ・ もっと回数を増やすべき。
- ・ 聴講者が非常に少なく感じた。折角の機会なので、もっとPRして出席者を増やしてもらった方が良かった。
- ・ 行政関係者はもっとマイクの使い方、話し方を勉強して下さい。何言っているのかわかりにくかった。一度録音して聞いてみて下さい。小泉委員は明日は〇〇、次の日は〇〇でコミュニケーションがありますと言われましたが、もっとせめて県庁所在地每位に開いてください。これで決まってしまうなら、先に結論ありきになりますよ。
- ・ 行政はできないことはできないとはっきり言うべきだ。

問5 今回、食品安全委員会プリオン専門調査会では昨年の発足以来、日本のBSE対策について初めて科学的に検証し、その結果を「日本における牛海綿状脳症（BSE）対策について - 中間とりまとめ - 」としてとりまとめ、今後さらに検討を行なっていくこととなりますが、この中間とりまとめを行なったことについてどのようにお考えですか？

1) 評価する	10	26.3%
2) やや評価する	18	47.4%
3) あまり評価しない	8	21.1%
4) 評価しない	2	5.3%

理由

- ・ 賛否両論ある中、議論を行うための資料提出は重要と思う。
- ・ リスク管理に活かせるようにしてほしい。事業者への徹底が重要であり、周知してほしい。
- ・ 現状分析は大切なことであるから。
- ・ リスクコミュニケーションの場を作り、意見の場を持った事が以前に比し良くなったと思う。
- ・ 但し、食品安全委員会事務局の方の発言は問題。アメリカ牛輸入解禁問題は、厚生省・農水省の判断との考え方は改めるべき。食品安全委員会とは、設立の理念と目的を「国民にとっての食の安全確保」に軸足を置くこと。決して専門家の研究内容をまとめる場ではないはず。
- ・ 人に対するリスクをベースに考えるのは合理的だと思うし、科学的根拠に基づき、食の安全について政策を決めていくことが大切だと思うから。
- ・ 簡単に答えが出る問題ではないと思うので、ある程度の時期に途中経過であっても、何かまとめを出してもらった方がよかったと思うので。

- ・ 情報として少しは受け取ることが出来たから。
- ・ 食品安全委員会には大きな期待を寄せています。消費者の安全にしっかりジク足を置いて下さい。
- ・ 個人的には、現在の検査技術では、月令の低い牛については検査をしても異状プリオンは発見できないなら、アメリカの言うようにSRMを完全に適切に除去すれば問題無いと考えていたが、そんなことでは納得出来ないと言う意見が多かったのには驚くと共に、自分の考えが甘いのかわからなくなった。アメリカから輸入する牛肉について、日本で検査すれば安心なのでは無いか。只、コストがかかる為、価格に影響が出るかもしれないが！
- ・ 情報公開の上から当然である。
- ・ 食品安全委員会が公平に科学的にしたいという姿勢であることを評価します。
- ・ 科学的見解は明確になった。しかし、結論部分(検査基準見直し)が不明確。
- ・ 牛肉だけ安全性を問題にしている(消費者)。もっと他の食品についても考える消費者を育成していく必要がある。
- ・ 内容はとにかくとして、とりくんだ姿勢は評価。
- ・ 科学的知見のもと、善し悪し内容はともかく、一定の方向が出されたと思う。
- ・ これからもBSEについては発生すると思います。これによって、公的機関がもっと消費者への安全をうたってほしい。
- ・ すでにわかりきっている事をまとめただけという印象。
- ・ かんじんな問題点に仮定や推論が多く、それを基に対策を導き出しているのは、非常に不安。科学的でない。
- ・ アメリカ牛の輸入でリスクは高まるのが目に見えているのに、そのことをムシしたリスク評価はイミがない。

問6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	25	65.8%
2) これまでに1回	3	7.9%
3) これまでに2回以上	10	6.3%

附問6 - 1 問6で3)を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や勧め方は改善されてきていると思いますか。

1) 以前よりは改善されてきた	5	45.5%
2) 改善すべき点がある	6	54.5%

改善すべき点があるとしたらどのような点が具体的にお書き下さい。

- ・ 議論された内容と、最後のまとめの方の言葉が反映されていない。
- ・ 一般に知らせるべき。
- ・ 会場からの質問、意見に対する適切な回答が聞けない場合もあった。アメリカ輸入と関係ないとしているが...依然消費者は不安は残る。

- ・ 質問になって、時間制限されているのはよい。
- ・ 参加者の意見が出て、双方向という形になってきた。
- ・ 参加人数の激減からみても、国民の今の感情がわかろうというものです。おかたの国民は知りません。
- ・ 結論ありきのコミュニケーションのように思える。不信あり。
- ・ 初めてなので何とも言えません。
- ・ リスクコミュニケーションと表現しながら、説明会のスタンスになっている。広く意見を聞くという機会に運営転換すべき。
- ・ 司会者がしゃべりすぎる。質問内容を限定しすぎる。

問 7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	16	40.0%
2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等）	25	62.5%
3) 食の安全ダイヤル	9	22.5%
4) 食品安全モニター	15	37.5%
5) 食品の安全性に関する用語集	10	25.0%
6) 食品の安全性に関する政府広報	12	30.0%
7) その他	0	0%

附問 7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ もっと地方自治体を利用していただければと個人的には思います。
- ・ かんじんな情報・議論は公開されていない。
- ・ パソコンから情報を得、本日参加することができたが、山盛りの情報の中から拾い出すのは大変。もっと多くの方面からの発信が必要では？会場に集まることが出来た人は、本当にアンテナをはっていた人だけだと思う。
- ・ 今日の意見を尊重してほしい。v C D J のリスク問題でなく、酪農家から B S E を除く努力も必要です。
- ・ ホームページを見る事のできない人はまだまだ多いと思います。新聞等、情報を一般に知ることのできる方法を利用して頂きたい。全般的に、マイク o r 話し方が問題か、壇上の方々の、口の中でモゴモゴと、話が聞きとりにくかったです。
- ・ 今回のリスコミ開催をどうやって消費者に伝えましたか？
- ・ 回答者の方のことば、不明多々有り。又、小泉委員の最後の挨拶には 9 0 分の意見交換は何だったのかと失望！！

- ・ もっと広報、新聞等に知らせるべき。なぜ、急いでいるのか？ 11月以降にずらすべきです。
- ・ 特になし。
- ・ 食品の安全性に関する用語集は参考になるので入手できて良かった。説明して頂く時、資料No.○の何ページをと全員の方が言ってもらった方がわかりやすかった。
- ・ 用語集は冊子で配布して下さい。パンフも有料と聞きましたが、有料では普及しないのではと思う。
- ・ 一般消費者にも分り易い用語に、より一層留意していただきたい。
- ・ これからも意見交換会を開催して下さい。
- ・ くれぐれも全国のコミュニケーションで国民の意見を聞いたなどとさっかくなさいませんように。今日の参加人数を考えていてください。

食品に関するリスクコミュニケーション（岡山）概要
—日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策の検証に関する意見交換会—

１．日 時：平成１６年９月２８日（火）１３：３０～１６：１５

２．場 所：岡山県立図書館多目的ホール（岡山市丸の内２丁目６－３０）

３．主 催：内閣府食品安全委員会

４．参加者：５５名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）

５．議 事

（１）開会挨拶 寺尾允男 食品安全委員会委員長代理

（２）講演

「プリオン専門調査会における調査審議の経緯及び『日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策について—中間とりまとめ—』などについて」

金子清俊 食品安全委員会プリオン専門調査会座長代理

（３）会場参加者との意見交換（主な意見、質問）

．リスク評価について

- ＢＳＥが国内で発生した原因をどのように分析しているのか。政策はどのように変わったのか。
- 輸入国に対するリスク評価を食品安全委員会として行うのか。

．リスク管理措置について

- 死亡牛も含めた全頭検査を国際基準に拡げる努力をしてほしい。
- ２０ヶ月以下の牛は安全だと誤解して「中間とりまとめ」が利用されるのではないか。
- 全頭検査による安心感が大きいことをきちんと受け止めてほしい。
- リスクを低下させる方向で引き続き研究を続けてほしい。
- ２０ヶ月以下を検査対象外にすると、未検査の肉は市場で評価されなくなるのではないか。
- 飼料の交差汚染について、飼料工場で製造ラインを分離しても挟雑物の不安がある。ラインの堆積物まで除去するなど、チェックしてほしい。
- トレーサビリティの対象を飼料製造の段階まで含めて欲しい。

．その他

- ＢＳＥは、垂直感染（母牛から胎児（初乳を飲むまで）への感染）する可能性はないのか。
- 意見交換会のプレスリリースから参加者募集までの日程が短かすぎる。（本当にリスクコミュニケーションが目的なのか。政治的なにおいがする。）

（４）閉会挨拶 見上 彪 食品安全委員会委員

「食品に関するリスクコミュニケーション（岡山）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004 年 9 月 28 日（火）

参加者数：55 名 回答数：30 名（回答率 54.5％）

問 1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	8	27.0%
2) 農林水産業	3	10.0%
3) 食品関連事業者	2	6.7%
4) 食品関連団体	1	3.3%
5) 研究機関	1	3.3%
6) 行政関係	13	43%
7) マスコミ関係	0	0%
8) その他	2	6.7%
・ 団体職員（全農）（1）		
・ 農林関係団体（1）		

問 2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。（複数回答有）

1) 食品安全委員会のホームページ	8	26.7%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	6	20.0%
3) 関係団体からのご案内資料	7	23.3%
4) 知人からの紹介	3	10.0%
5) その他	8	26.7%
・ 農水省 HP（1）		
・ 農水省メールマガジン（1）		
・ 消費者技術センターのメルマガ（2）		
・ 農林水産省中国四国農政局からの情報（1）		
・ 新聞（2）		
・ 岡山県庁関係部（1）		

問 3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	9	30.0%
2) やや評価する	20	66.7%
3) あまり評価しない	0	0%
4) 評価しない	0	0%
5) 無回答	1	3.3%

評価理由・

- ・ 科学的視点からのありのままの報告は評価できる。結果の一部を結論とした政策にならないように願う消費者の意見を取り入れ、十分な政策にしていくことを望む。
- ・ まず、食品安全委員会の金子委員の誠実な態度に信頼を持ちました。リスクはリスクとして、明確に国民に情報公開している食品安全委員会に期待しています。
- ・ 講演はとてもわかりやすかった。
- ・ 消費者や生産者の意見を伝える会があるのは良いが、急なことだったので参加できない人もいた。
- ・ 普通は安全委の活動、主に検討趣旨や内容はマスコミを通して知る。直接お聞きして安心度は増した。マスコミ関係に正確に知らせる努力もお願いしたい。
- ・ 率直な意見を聞いてもらえる。
- ・ 地方で上流と下流の意見交換ができた点。
- ・ 直接意見を言える場ができてよい。
- ・ とりくみは評価できるが、具体的進行については改善の余地あり。くつの上から足の裏をかくような歯がゆさがある。
- ・ 県行政の推進を検討するにあたり参考になった。しかし、会の中であつたように、周知が十分でなかったため参集範囲がせまかったのではないかと思う。
- ・ 食品安全委員会の存在を信頼し、期待したい。
- ・ 消費者の参加が少ないように感じた。
- ・ この会について、もっと広くたくさんの人に集まってもらえるようにするためのPRが不足している。
- ・ 今わかっていること、現在のBSE対策評価の現状が良くわかった。今最大の関心事は、規制緩和と輸入規制解除である。この議論をもっとすべきでは。
- ・ 迅速なリスクコミュニケーションが起きている。
- ・ 全頭検査不要論はおかしい。学者は学者として判断すべき。政治利用されるな。BSE発生要因として、BSEに感染した肉骨粉の使用と方向付けしているが、牛脂が問題ではないのか - 代用乳。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | |
|--------------------------------|----|-------|
| 1) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた。 | 21 | 70.0% |
| 2) BSE対策について理解が深まった。 | 14 | 46.7% |
| 3) 会場参加者と行政関係者との意見交換が出来ていて良かった | 9 | 30.0% |

- | | | |
|--|---|-------|
| 4) 意見交換というより一方通行の意見表明をする場になっていた。 | 0 | 0.0% |
| 5) 行政関係者の話をもっと聞きたかった。 | 4 | 13.3% |
| 6) もっとわかりやすく簡単に解説してほしかった。(まだまだ難しくりかいしにくい) | 6 | 20.0% |
| 7) 講演時間を十分とって背景なども含めて説明して欲しい。 | 3 | 10.0% |
| 8) 講演時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとって欲しい。 | 1 | 3.3% |
| 9) 偏った意見が目立っていたように思う。 | 2 | 6.7% |
| 10) 講演資料が分かりやすかった。 | 5 | 16.7% |
| 11) 意見交換だけではなく、もっと内容について議論する事が必要だ。 | 3 | 10.0% |
| 12) その他 | 4 | 13.3% |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクコミュニケーションは国民の為というよりアメリカの為(早く輸入する為)が目的であると感じます。 ・ 現場の重要な所をもっと直視していただきたい。 ・ もっと時間がほしい。 ・ 発言者は、先ず自分の意見ありきで、本日の説明の内容を理解しようとの姿勢は感じられなかった。 | | |

問5 今回、食品安全委員会プリオン専門調査会では昨年の発足以来、日本の BSE 対策について初めて科学的に検証し、その結果を「日本における牛海綿状脳症 (BSE) 対策について - 中間とりまとめ - 」としてとりまとめ、今後さらに検討を行なっていくこととなりますが、この中間とりまとめを行なったことについてどのようにお考えですか？

- | | | |
|--------------|----|-------|
| 1) 評価する | 15 | 55.6% |
| 2) やや評価する | 12 | 44.4% |
| 3) あまり評価しない | 0 | 0% |
| 4) 評価しない | 0 | 0% |

理由

- ・ 2001年、E u 委員から日本に対して飼育方法餌についてのデータの請求があったが提出しなかった。その点から見れば、多少進歩したと思われるが、今後も人の健康を第一に安全対策を徹底していただきたい。

- ・ 客観的には理解するが、管理機関がどう受け止めるのか不安。あくまでも国民の健康保護を最優先で考えるべきである。
- ・ 中間的なまとめは必要だと思うし、それなりに評価します。イコール全頭検査を取りやめるということに結論づけてほしくないと思います。
- ・ 中間報告・まとめがあるのは希望があり、良いと思う。しかし、全頭検査は是非続けてほしい。
- ・ 手数がかかっても消費者等に多く知らしめる努力は必要。研究者の方、評価委の方々のご苦勞に感謝しています。
- ・ 報道等では結果ばかりがとりあげられ、過程がなかなか伝わってこないのも、消費者に違ったイメージを与えるおそれがある。
- ・ 広く一般に公開したため。
- ・ アメリカの輸入再開についての判断基準に使用しないでほしい(20ヶ月令だけ)。日本と同等の基準に基づいて再開してもらいたい。
- ・ 今後の展開についての詳しい説明もほしかった。
- ・ 背景の説明に、食品安全委員会を評価したい。
- ・ 科学的視点で取りまとめを行い、情報公開(リスクコミュニケーション)を行っているから。
- ・ 全頭検査、SRM除去、飼育規制、輸入規制などが、BSE拡大、およびvCJD感染防止に役立っていることがわかった。
- ・ 長い時間をかけると世論の興味を失うことになると思う。
- ・ 現時点での知見をもとに判りやすく整理されている。しかしながら、検査月令について玉虫色。20ヶ月以下は事例がないので検査は不要とは早尚の結論。我が国で20ヶ月未満の牛が食肉用としてと殺事例はごく少ない。発症事例はゼロはあたりまえ。だから全頭検査の不要論はおかしい。

問6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	22	75.9%
2) これまでに1回	6	20.7%
3) これまでに2回以上	1	3.5%

附問6-1 問6で3)を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や勧め方は改善されてきていると思いますか。

1) 以前よりは改善されてきた	4	57.1%
2) 改善すべき点がある	3	42.9%

改善すべき点があるとしたらどのような点が具体的にお書き下さい。

- ・ 意見交換の進め方の見方がちがうのでは。 管理・規制の状況。 リスク評価。 今後規制緩和等BSE対策について。

問 7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	21	70.0%
2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等）	12	40.0%
3) 食の安全ダイヤル	24	80.0%
4) 食品安全モニター	9	30.0%
5) 食品の安全性に関する用語集	11	36.7%
6) 食品の安全性に関する政府広報	11	36.7%
7) その他	0	0%

附問 7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ 食の安全性の究極の目標は自給率の向上をめざすべきです。生産者が安心して生産に取り組むべく、ドイツ、フランス並みの生活保障の政策を進めていただきたい。
- ・ もっと広範に積極的に広報してほしい。
- ・ 初めて参加しましたが、せっかくの機会、もっと多くの人が参加できるよう広報してほしいです。
- ・ まだまだ用語、表現がむずかしい。
- ・ もう少し早く連絡を。
- ・ 今後の活動にとっても期待している。1つの中立な委員会としてがんばっていただきたい。
- ・ 2)の議事録については、内容が詳しく、参加していなくても内容を理解することができる。
- ・ 用語集に関しては説明文章をもう少し検討してほしい（非常に読みづらい文章だと思います）。
- ・ HP上で、委員会の内容等比較的早く、詳しく公開されていると思う。今後、更に開かれた委員会として行って欲しい。新しい機関としての事務局の努力、ご苦労様です。頑張ってください。
- ・ 行政から独立したものであるため、PRしたりする手足がないのではないかな。TVでコマーシャルなどをしてはどうか。
- ・ 全頭検査、SRM除去、飼育規制を今後も継続し、牛肉に対して消費者が不安に思わない様にしてほしい。
- ・ さすがの委員会。今後も頑張ってください。

食品に関するリスクコミュニケーション（福岡）概要

—日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会—

1. 日 時：平成 16 年 10 月 6 日（水）13：30～16：00
2. 場 所：エルガーラホール 中ホール（福岡市天神福岡市中央区天神 1 丁目 4 - 2）
3. 主 催：内閣府食品安全委員会
4. 参加者：89 名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）
5. 議 事：
 - (1) 開 会 挨 拶 寺尾 允男 食品安全委員会委員長代理
 - (2) 「プリオン専門調査会における調査審議の経過及び『日本における牛海綿状脳症（BSE）対策について - 中間とりまとめ - 』などについて」
吉川泰弘 プリオン専門調査会座長（東京大学大学院農学生命科学研究課獣医学専攻教授）
 - (3) 会場参加者との意見交換（主な意見、質問）
 - リスク評価について
 - SRM をフードチェーンから排除してしまえば、もっとリスクの係数は低くなるのではないか。
 - 発生の確率だけでなく、vCJD という病気の恐ろしさも評価に入れるべきではないか。
 - 国産牛肉の安全性と米国産牛の安全性を数値で並列して示して欲しい。
 - と畜場における交差汚染防止のための技術について、今後、改善すべき点は何か。
 - リスク管理措置について
 - リスクは全くのゼロではないのだから、全頭検査は継続すべきである。
 - 意見交換会はまだ終わっていないが、管理省庁は再諮問をなぜ急ぐのか。
 - 20 ヶ月齢以下の牛の検査を除外した場合、どの程度の経費節約となるのか？
 - 国内及び米国産で 20 ヶ月齢以下でと畜される牛の割合はどの程度か？過去、20 ヶ月齢以下でと畜された牛肉が輸入された実績はあるのか？
 - 20 ヶ月齢以下の牛を検査対象から除外することは、米国産牛肉を解禁する理由の様に思われる。
 - 肉骨粉の流通費等について今後生産者の負担にならないようにして欲しい。
 - 自主的に全頭検査継続を決めている県もあるが、全国的に統一すべきではないか？
 - 自主的に継続する県については、表示等で差別化を図れるようにするべきである。
 - その他
 - 「非定型」、「異型」、「変異型」といった用語について教えて欲しい。
 - SRM の不活性化についての研究は進められているのか？
 - 食品安全委員会は、厚生労働省、農林水産省の上に立つ官庁なのか？
 - 食品安全委員会は消費者にもわかりやすい情報提供に努めて欲しい。
 - (4) 閉 会 挨 拶 見上 彪 食品安全委員会委員

「食品に関するリスクコミュニケーション（福岡）」
～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
アンケートの集計結果

開催日：2004 年 10 月 6 日（水）

参加者数：89 名 回答数：39 名（回答率 43.8%）

問 1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	8	20.5%
2) 農林水産業	0	0.0%
3) 食品関連事業者	6	15.4%
4) 食品関連団体	3	7.7%
5) 研究機関	4	10.2%
6) 行政関係	15	38.5%
7) マスコミ関係	0	0.0%
8) その他	3	7.7%

- ・ 食トレシステム構築中。システム標準化を早急に示してほしい。（1）
- ・ 生産者団体（1）
- ・ 学生（九州大学）（1）

問 2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	15	38.5%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	9	23.1%
3) 関係団体からのご案内資料	11	28.2%
4) 知人からの紹介	5	12.8%
5) その他	2	5.1%

- ・ 新聞（1）
- ・ 無記入（1）

問 3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	19	48.6%
2) やや評価する	15	38.5%
3) あまり評価しない	1	2.6%
4) 評価しない	1	2.6%
5) 無回答	3	7.7%

評価理由

- ・ 大都市だけでなく、地方の中小都市や大都市の区役所ホールのようなところ
もいくつか選定して、リスクコミュニケーションをやってもらいたいと思い

ます。消費者も多様です。今後、リスクコミュニケーションを開催する場合には、このようなことも配慮していただければありがたいと存じます。

- ・ 一般消費者を参加させて意見を言うことが出来ればと思うが。
- ・ 開催の周知が不十分。
- ・ 用語説明等、説明が判りやすかったと思います（吉川先生）。
- ・ 時間的制約が厳しい。
- ・ 「BSE対策」というテーマで、今この時期に（アメリカからの政治的な要求に対する回答を迫られている）とりあげるのか。マスコミを通じて、うまく利用されているのではないのでしょうか。
- ・ 様々な立場の人の意見を聞くことができた。
- ・ 参加人数が少ないため、意見が十分に出たとは思えません。もっと人を集める手段を考えなくてはならないと思います。意見交換会の周知方法、集客方法に問題があるのでは。
- ・ 一般消費者にとっては分かりにくいものもあるのでは。と畜の方法等の説明もあれば、よりわかりやすくなるのでは。
- ・ 現時点でわかっていることとわかっていないことが明確にされてよかった。
- ・ それぞれの立場の人の考え方が理解できて良かった。食品に関する問題は科学的なもの（実証）だけではないこと、即ち、感情的な問題も多く、なかなか結論が出にくいと思う。ただ、本当に一般の消費者の意見もあって良いのではないかと感じた。
- ・ ただ、こういう会議があることすら充分に知られていない。情報発信不足の感がある。私は行政の立場にいるが、この会議を知ったのは2日前でした。
- ・ 生産者、販売業者等の生の声が聞けてよかった（特に、レンダリング業者、肥料について）。
- ・ はじめたばかりの取り組みとして評価できるから。
- ・ こういう会に参加される方（一般の方）は多少なりと知識をお持ちですが、主婦等ほんとに一般の方へのRCが必要だと思いました。こういう会が地域の保健所レベル（数十人）でできれば...と思っています。
- ・ 冷静な説明、会場の意見に対する対応がよい。
- ・ きちんとした説明と資料があり、よかった。

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | |
|---------------------------------|----|-------|
| 1) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた | 21 | 46.4% |
| 2) BSE対策について理解が深まった | 20 | 30.9% |
| 3) 会場参加者と行政関係者との意見交換ができていて良かった | 13 | 51.5% |

- | | | |
|---|---|-------|
| 4) 意見交換というより一方通行の意見表明をする場になっていた | 3 | 30.9% |
| 5) 行政関係者の話をもっと聞きたかった | 3 | 5.2% |
| 6) もっとわかりやすく簡単に解説してほしかった。(まだまだ難しく理解しにくい) | 4 | 22.6% |
| 7) 講演の時間を十分とって背景なども含めて説明してほしい | 6 | 19.6% |
| 8) 講演時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとってほしい | 3 | 19.6% |
| 9) 偏った意見が目立っていたように思う | 1 | 19.6% |
| 10) 講演資料がわかりやすかった | 4 | 19.6% |
| 11) 意見交換だけではなく、もっと内容について議論することが必要だ | 4 | 19.6% |
| 12) その他 | 2 | 19.6% |
- ・ 質疑応答はあったが、論議が深まったという感じはなかったと感じた。質問の出方というのもあると思いますが…。
 - ・ 講演(時間)を確保した上で、意見交換の時間もとって欲しい。

問5 今回、食品安全委員会プリオン専門調査会では昨年の発足以来、日本のBSE対策について初めて科学的に検証し、その結果を「日本における牛海綿状脳症(BSE)対策について - 中間とりまとめ - 」としてとりまとめ、今後さらに検討を行っていくこととなりますが、この中間とりまとめを行ったことについてどのようにお考えですか？

- | | | |
|--------------|----|-------|
| 1) 評価する | 21 | 53.8% |
| 2) やや評価する | 10 | 25.6% |
| 3) あまり評価しない | 3 | 7.7% |
| 4) 評価しない | 1 | 2.6% |
| 5) 無回答 | 4 | 10.3% |

評価理由

- ・ 政治に影響を与え、又権威を持つように、力をつけていただきたい。それまでは、評価の対象ではありません。権限も持てるよう前進していただきたい。

問6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	23	59.0%
2) これまでに 1 回	8	20.5%
3) これまでに 2 回以上	6	15.4%
4) 無回答	2	5.1%

附問 6 - 1 問 6 で 3) を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や進め方は改善されてきていると思いますか。

1) 以前よりは改善されてきた	4	66.7%
2) 改善すべき点がある	2	33.3%

改善すべき点があるとしたらどのような点か具体的にお書きください。

- ・ 用語を聞きなれないものを多く使われるのは注意して欲しい。
- ・ 初回なので判断不可能です。
- ・ 消費者の立場からは、問題をしばると意見が出しにくい。
- ・ もっと意見交換そのものの時間を確保して下さい。個人的には、1 3 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0 位の設定でも構いません。

問 7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	16	73.2%
2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等）	29	41.0%
3) 食の安全ダイヤル	5	12.8%
4) 安全モニター	9	23.1%
5) 食品の安全性に関する用語集	5	12.8%
6) 品の安全性に関する政府広報	9	23.1%
7) その他	0	0.0%

附問 7 - 1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ インターネットの使用可能な消費者は、現在では一部の人にすぎない。正しい情報は社会全体へ。
- ・ 輸入食品監視に係る行政機関ですが、今日は年休 + 自費で参加させていただきました（そうならざるを得ませんでした）。厚生労働省福岡検疫所検疫衛生・食品監視課長大村貴造でございます。
- ・ オーストラリアの牛肉は安全なのですか。
- ・ 吉川先生の説明はわかりやすかった。
- ・ 国民に対するリスコミの必要をよりいっそう考慮して、数多く開催してほ

しい。

- ・ 今、６）を配布していただいてよかった。手に入れて他の人にも紹介したい。福岡でも開催していただきありがとうございます。主催は違うが、安全委員会、農水、厚生でスケジュールを調整してから日程を発表していただくと助かります。熊本であってすぐ福岡でしたので。

食品に関するリスクコミュニケーション（札幌）概要
—日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策の検証に関する意見交換会—

- １．日 時：平成１６年１０月８日（金）１３：３０～１６：２０
- ２．場 所：札幌プリンスホテル国際館パミール（札幌市中央区南２条西１１丁目）
- ３．主 催：内閣府食品安全委員会
- ４．参加者：９３名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）
- ５．議 事
 - （１）開会
 - （２）開会挨拶 寺田雅昭 食品安全委員会委員長
 - （３）講演
「プリオン専門調査会における調査審議の経緯及び『日本における牛海綿状脳症（ＢＳＥ）対策について—中間とりまとめ—』などについて」
山本茂貴 食品安全委員会プリオン専門調査会専門委員
 - （４）会場参加者との意見交換
 - ．リスク評価について
 - ＢＳＥのリスクはゼロにすべきである。
 - 「中間とりまとめ」、各省の反応や一連のリスクコミュニケーションは全頭検査を止めるための「茶番劇」に見える。
 - ＢＳＥ検査によって病気がみつかるのではないこと等は理解できた。
 - ．リスク管理措置について
 - 「２０ヶ月以下で検出困難」がどうして「全頭検査廃止」につながってしまうのか。
 - ２０ヶ月以下の検査を止めることでどのくらいの予算の節約になるのか。
 - 感染経路の解明もできていないのに、施策の見直しはおかしい。
 - 疑似患畜から感染牛が出ないのは、突然変異など別の要因があるのではないか。原因がはっきりしないうちは、幼牛から検査するべきである。
 - 米国産牛肉の輸入規制は見直すべき。未検査の肉も流通させ、市場原理に委ねるべきである。消費者も検査済みの肉だけを買うわけではないはずである。
 - 単独で全頭検査をするという県がある。国内に複数の安全基準があることは問題ではないか。
 - 月齢を切るなら、１８ヶ月以下にして欲しい。
 - ．その他
 - 異常プリオン ０.００１ｇでも感染するというのは経口投与ということか。また、異常プリオンの感染性の耐熱性を教えて欲しい。
 - 欧州でいまだにＢＳＥが発生しているのは何故か。
 - 今後は若い世代へのリスクコミュニケーションも重要である。
 - （５）閉会挨拶 小泉直子 食品安全委員会委員

「食品に関するリスクコミュニケーション（札幌）」
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～
 アンケートの集計結果

開催日：2004 年 10 月 8 日（金）

参加者数：93 名 回答数：45 名（回答率 48.4％）

問 1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	4	8.9%
2) 農林水産業	5	11.1%
3) 食品関連事業者	9	20.0%
4) 食品関連団体	3	6.7%
5) 研究機関	0	0.0%
6) 行政関係	15	33.3%
7) マスコミ関係	1	2.2%
8) その他	7	15.6%
・ 生産者（1）		
・ 団体職員（1）		
・ 食品製造機器販売（1）		
・ 消費者団体（1）		
・ 酪農関係団体（1）		
・ 無記入（2）		
9) 無回答	1	2.2%

問 2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	9	20.0%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	13	28.9%
3) 関係団体からのご案内資料	14	31.1%
4) 知人からの紹介	1	2.2%
5) その他	7	15.6%
・ 道新（2）		
・ 新聞報道（3）		
・ 職務命令（1）		
・ 北海道庁からの案内（1）		
6) 無回答	1	2.2%

問 3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	8	17.8%
2) やや評価する	15	33.3%

3)	あまり評価しない	13	28.9%
4)	評価しない	4	8.9%
5)	無回答	5	11.1%

評価理由

- ・ 一部の人々の意見であること。役所サイドも片手間の仕事であること。安全は追求限界あり、ハイコストだ。リスクヘッジは個人責任有。
- ・ 前回同様、内容がない。同じ事を何度も言っているが、何の進展もない。国も本音を言う必要があるのでは(B S E 検査 = 安全検査なのか)。 S R M の除去が安全性を保つ手段なのでは。
- ・ 消費者のことをよく考えて、結論を出してほしい。
- ・ 言葉の定義をあいまいにしたまま回答をしており、交換になっていないのではないかと。質問に答えない(はぐらかしているのがみえる)。
- ・ 何も科学的データ知見として示されていない。異常プリオンとは！なぜ(原因) 実態としてどのように広がったの！ただ、検査の結果と外国での報告→の話など、皆知りつくしているヨ。しかも、10月8日時点での国内の発生状況も知らない。
- ・ 良く理解できた。
- ・ 行政側と消費者、団体との意見があまりにもひらきすぎているのではないかと。この意見交換会が意義のあるものになるか、疑問が残った。
- ・ 食品安全委のアリバイづくりに感じる。農林水産・厚生労働省から諮問があってからの意見表明であるはずのものが、結果ありきからの形で動いている。しゃべり過ぎ→今の政治のやり方と同じ。報道に情報を流して、ある程度道すじをつけてから、やりたい方向に持っていこうとしている。
- ・ 各方面の現在の意見がはっきり提示されたと思います。これを国はまっすぐ受けとめ、安全性の高い肉を消費者に提供できるようにして欲しい。
- ・ 近年、このようなリスクコミュニケーションが多く行われ、国民のリスクに対する意識が高くなっていることは評価できるが、安全委員会の立場やリスクに対する考え方の基本をもっと説明すべき。国民のレベルはまだまだ低く、感情的な一方的な意見ばかりが目立つ。メリットとデメリットと説明する、基本的なところを再度強化してもよいのでは。
- ・ 評価するのとしたところだが、時間が短いので2)とした。質問も長い、答えも長過ぎる場合があった。
- ・ 前半の説明は何度も聞いていたので、必要ないのではないかと。
- ・ 全頭検査の意義、B S E の学識的な説明、リスク評価について等々、参加者が様々にいる中では、これらの説明も必要だったのではないかと。
- ・ まず結論ありきのように、だれかも言っていたが「茶番」のようだ。得られた意見を実際に活用しているのか疑問。
- ・ 役所の主催みたい。まず委員が答え、役所は補足にとどめるべきだ。司会者

が言語不明瞭。

- ・ ときおり、受け答えで問題のすり替えを行った。
- ・ 多分他の人の考え方が直接聞けた。
- ・ リスクの評価（科学）と管理（政策）が混同されて議論されている。「評価」に対する意見交換でなく「管理」に関する話題になり、これでは内閣府主催ではなくて、厚生省・農水省主催と変わらない。
- ・ 生産の状況および国産牛の販売状況を把握している担当が見られない。U S の牛肉の輸入前提での会であった。すべて国の方向は決まっているのではないか。国内生産の状況を見視している。
- ・ 意見交換会に対する評価は、その中身がどうであるかで決まる。これまでも参加しているが、消費者、生産者の意見をしっかりと受けとめてもらっていないと感ずる。
- ・ 消費者の納得を得るため必要であり、今後も手法をかえて充分に実施すべきである。
- ・ 意見交換会は参加者のガス抜きのためのもののよう感じます。両省のこれからのリスク管理の方向が見えています。これが消費者のためなのですか？
- ・ それぞれの立場での意見交換会。まとめは期待できないわけで、中間報告の実現に向けて取り組んでいただきたい。大変意義のある交換会であった。

問 4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

- | | | |
|---|----|-------|
| 1) 情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた | 8 | 17.8% |
| 2) B S E 対策について理解が深まった | 6 | 13.3% |
| 3) 会場参加者と行政関係者との意見交換ができていて良かった | 12 | 26.7% |
| 4) 意見交換というより一方通行の意見表明をする場になっていた | 9 | 20.0% |
| 5) 行政関係者の話をもっと聞きたかった | 7 | 15.6% |
| 6) もっとわかりやすく簡単に解説してほしかった。(まだまだ難しく理解しにくい) | 11 | 24.4% |
| 7) 講演の時間を十分とって背景なども含めて説明してほしい | 3 | 6.7% |
| 8) 講演時間をもっと短くして会場参加者との意見交換の時間を多くとってほしい | 7 | 15.6% |
| 9) 偏った意見が目立っていたように思う | | |

	8	17.8%
10) 講演資料がわかりやすかった		
	8	17.8%
11) 意見交換だけではなく、もっと内容について議論することが必要だ		
	8	17.8%
12) その他		

6 13.3%

- ・ 消費者、生産業界、食肉関係と分けたリスコミが必要と感じる。
- ・ 事前に質問票を配れば、半分は答弁も整理された。消費者団体、教育関係者も一定以上させた方が良い。PRのため。
- ・ 出された意見が本当に反映されるのか疑問も感じる。参加者はそれぞれの立場で、断片的な情報により主観的に物を考えている。まだまだ、国民の理解（信頼）を得るには努力が必要と思った。
- ・ 「マスコミ発表の後追い」それぞれの立場での周知事実について、意見交換になってしまった。
- ・ 消費者の全頭検査を継続してほしい意見が多いのに、必ず行政側は全頭検査中止の説明をしている。

問5 今回、食品安全委員会プリオン専門調査会では昨年の発足以来、日本のBSE対策について初めて科学的に検証し、その結果を「日本における牛海綿状脳症（BSE）対策について - 中間とりまとめ - 」としてとりまとめ、今後さらに検討を行っていくこととなりますが、この中間とりまとめを行ったことについてどのようにお考えですか？

1) 評価する	16	35.5%
2) やや評価する	13	28.9%
3) あまり評価しない	9	20.0%
4) 評価しない	4	8.9%
5) 無回答	3	6.7%

評価理由

- ・ 検討が相当進んで良い結論を得ている。
- ・ 内容がとぼしい。
- ・ 不十分であろうが、十分であろうが、形あるものにすることはよいのではないか。
- ・ 20ヶ月令の根拠があいまい。全頭するか、全頭しないか。
- ・ 何も科学的でない（我国でプリオン病を知っている専門家など無に近い）。専門用語を多く活用したとしても、科学的とは言えないヨ。
- ・ いろいろな意見がきけた。消費者の意見をきこうとする姿勢はいいが、これが有効なものにならなければ意味がないと思う。

- ・ 科学的というよりも、資料の蓄積にほかならない。S R Mが本当に適切に処理されているという根拠はいかに？
- ・ 科学的評価を行い、議論を進めていくこと自体が、日本として一歩進んだと考えられるため。
- ・ 科学的判断と科学以外のものからの要請による判断とを、何とか整合させようとする姿勢を、批判する人たちもいるが、今回の委員による科学的判断は、正直なものであったと言える（苦しかったと思います）。基本的に中間とりまとめを評価するものの、若い学生さんたちの“不安”と“不信”をぬぐうためには、新基準づくりもう少しゆっくりと時間をかけるべき（リスクコミュニケーションを若い人たちの中にもっていく）。
- ・ 20ヶ月以下の感染牛が確認されていない。だから、検討する。この意味がやっとわかりました。
- ・ リスク管理省庁の意向が強く出ていると一般に受け止められている。誤解を受けない態勢づくりが大切。
- ・ 対応が遅い。又、米国との輸入再開に向けた協議が進められている中、再開に向けた周辺整備としか考えられない。
- ・ 本当に意見を反映してもらえるのか疑問。
- ・ 「20ヶ月令」の線引きをしてないと「評価」（中間とりまとめ）にあるが、行政の管理手法（20ヶ月令以下は検査対象からはずす）において、数字（20ヶ月）がひとり歩きしている。これは、中間とりまとめを実施した結果によるものと思われる。
- ・ と畜場における全頭検査350万頭分のデータをベースにとりまとめた数字上の評価はあるが、すでにO I Eでの報告済のことではないか？
- ・ リスク評価があいまいである。
- ・ 科学的知見に立って白黒をつけた表現を求める。
- ・ 問題となるのは、リスク管理者である両省が、そのリスク評価を自省庁の都合のいいように利用することです。
- ・ アメリカからの圧力を感じるも、日本なりにしっかりした報告であった。
- ・ 21ヶ月令の線引きと受け取れるが、根拠が合理的でない。

問6 本日のような意見交換会にこれまでどれくらい参加したことがありますか。

1) 今回が初めて	19	42.2%
2) これまでに1回	11	24.4%
3) これまでに2回以上	13	29.0%
4) 無回答	2	4.4%

附問6 - 1 問6で3)を選択した方にお伺いします。意見交換会のあり方や進め方は改善されてきていると思いますか。

1) 以前よりは改善されてきた	7	53.8%
-----------------	---	-------

2) 改善すべき点がある 4 30.8%

改善すべき点があるとしたらどのような点か具体的にお書きください。

- ・ デモクラシー評価。
- ・ 多少ひな段との距離が短くなったかな？
- ・ 質問の要旨をもっと集約して、質疑応答をスムーズにすべし。進行（コーディネート）を上手にして欲しい。
- ・ 問4での話と同様（前例の話がくどく長い。多くの人に話をさせるべき）。
- ・ 時間的余裕なし。全ての質問に答えていない。ex.ホルスタイン20ヶ月以下出荷時の検査について、安全とは別物ですか。
- ・ 交換会というよりいいわけ会のように思う。意見を出す事がどれだけ役に立っているのか。一応やりましたでは困る。
- ・ もっと意見を出せるように、時間も5分ぐらいほしい。回答者の話が長すぎて、前置きだけで、2分以上はありました。
- ・ 畜産に関する基礎知識レベルが、参加者の中で違いすぎる。あまりにも感情論が多すぎる。
- ・ 一方通行である。科学的だけでは理解できない。
- ・ リスコミを行う目的をはっきりと（きちんと）打ち出して開催願いたい。流れで進んでいるような気がする。十分なリスコミは行うべき。
- ・ アンケート結果の発表がされていない。
- ・ 講演時間を短くし、意見交換時間を多く持つべき（逃げてはいけない）。

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

- | | | |
|--|----|-------|
| 1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること） | 13 | 28.9% |
| 2) 食品安全委員会ホームページ（委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等） | 29 | 64.4% |
| 3) 食の安全ダイヤル | 5 | 11.1% |
| 4) 安全モニター | 5 | 11.1% |
| 5) 食品の安全性に関する用語集 | 11 | 24.4% |
| 6) 食品の安全性に関する政府広報 | 8 | 17.8% |
| 7) その他 | 1 | 2.2% |
- ・ 各省庁のHP、メールマガジン

附問7-1 上記で選択したものについて、御意見やご感想がございましたらご記入ください。

- ・ SRM除去、合理的検査＝全頭否定。プリオン、ウイルスに関し、更に専門的に大規模な長期的特別チームによる研究開発するべきだ。

- ・ 前会の農水、厚生のは、お上の押しつけだった。今回はさすが、コミュニケーション度60%だった。その点評価。聞く耳を持っていた点。全頭検査は少し続けるべきだが、委員の表現（わかりやすい）工夫があれば、なお良い。
- ・ 従来からあった各省庁の“審議会”のようにならないよう（形式的に第3者の意見を聞きました）頑張ってください。
- ・ 終了の時間を守っていただきたい。
- ・ メールマガジンについて。議事録が出され、アンケートの中身も出されていることを評価します。
- ・ 地方に居たらどうアクセスできるか分からない。例えば広報誌は？
- ・ 国民の意見を本当に反映できるのか。
- ・ 全頭検査の継続を要望します。US牛の輸入は解禁すればいい（アメリカの検査の有無にかかわらず）。20ヶ月齢以下は検出できないではなく、安全だといってくればよい。この意見交換会での消費者からの全頭検査の要望は、しっかり伝わるの？
- ・ 最初から、全頭検査見直しありきで開催されているように感じた。全頭検査はBSEフリーになるまで、実施すべしと考えます。